

Clavinova®

取扱説明書

CLP-826

このたびは、ヤマハ製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
この製品は、高品位な音とタッチで演奏をお楽しみいただける電子ピアノです。
本書をよくお読みになって、この楽器に搭載された機能を十分にご活用ください。
また、お読みになったあとも、いつでもご覧になれるところに大切に保管してください。

ご使用の前に必ず4～7ページの「安全上のご注意」をお読みください。

組み立て説明については、36ページをご覧ください。

説明書について

この製品には、以下の説明書が用意されています。



製品に付属

• 取扱説明書(本書)

この楽器の機能や使い方を説明しています。最初にお読みください。

表記上の決まり

 警告	「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。
 注意	「傷害を負う可能性が想定される」内容です。
ご注意	「製品の故障、損傷や誤動作、データの損失の発生が想定される」内容です。
NOTE	知っておくといふ補足情報です。



ウェブサイトで提供

• クイックオペレーションガイド

ボタンや鍵盤に割り当てられた機能の一覧表です。本書巻末にも掲載していますが、下記ウェブサイトからダウンロードもできます。



<https://manual.yamaha.com/mi/rt/clp826/>

• MIDIリファレンス

この楽器のMIDIに関する資料を掲載しています。

• スマートピアニスト ユーザーガイド

この製品と連携して使用できるスマートデバイスアプリ「スマートピアニスト」(31ページ)の使い方を説明しています。



これらの説明書はウェブサイトでご覧になれます。

ヤマハ | サポート・お問い合わせ「取扱説明書」 * 製品名を入力して検索してください。

<https://jp.yamaha.com/support/manuals/>

付属品(お確かめください)

- ☐ 取扱説明書(兼保証書) ×1
- ☐ 楽譜集「クラシック名曲50選」×1
- ☐ 製品登録のご案内 ×1
- ☐ ヘッドホン ×1
- ☐ 椅子(高さ調節可) ×1 *ハンドルを時計回りに回すと高くなります(出荷時には、ハンドルは固めに締められています)。
- ☐ 電源コード ×1、電源アダプター ×1

目次

説明書について	2
付属品(お確かめください)	2
安全上のご注意	4
使用上のご注意	8
お知らせ	8
各部の名称と機能	10

基本編

ご使用前の準備	11
鍵盤蓋を開ける/閉める	11
譜面立てを使う	11
電源を入れる/切る	12
オートパワーオフ機能	12
音量制限機能	13
ヘッドホンを使う	13
ピアノとして演奏する	15
ペダルを使う	15
パーチャル・レゾナンス・モデリング(VRM)の設定	16
インテリジェント・アコースティック・コントロール (IAC)を使う	16
グランド・エクスプレッション・モデリングの設定	17
鍵盤の操作音の設定	17
鍵盤のタッチ感度を変える	17
メトロノームを使う	18

応用編

音色を楽しむ	19
音色を選ぶ	19
デモ曲を聞く	20
音に残響を付ける(リバーブ)	21
キー(調)を変える(トランスポーズ)	22
音の高さを微調整する(チューニング)	22
2つの音色を重ねる(デュアル)	23
2人で一緒に弾く(デュオ)	24
曲(ソング)を再生する、練習する	25
プリセットソング(クラシック名曲50選/レッスン曲)を 聞く	25
パートを指定して片手練習する	26
最初の発音からすぐにスタートする(クイックプレイ)	26

演奏を録音する	27
演奏を録音する	27
録音済みのユーザーソングの設定を変える	28
録音した演奏を消去する	28

スマートデバイスやコンピューターと接続し て使う	29
オーディオデータを再生/録音する (USBオーディオインターフェース機能)	29
Bluetooth対応機器のオーディオ再生音を 楽器のスピーカーで聞く(Bluetoothオーディオ機能)	30
アプリ「スマートピアニスト」とつないで 便利な機能を使う	31

データのバックアップと初期化	33
電源を切ったときに記憶されるデータ	33
初期化する	33
楽器のバージョンを確認する	33

資料

困ったときは	34
用語解説	35
組み立て方	36
仕様	39
索引	41
ソング一覧	43
保証とアフターサービス	45
クイックオペレーションガイド	巻末

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様やほかの方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お子様がご使用になる場合は、保護者の方が以下の内容をお子様にご徹底くださいますようお願いいたします。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	注意喚起を示す記号
	禁止を示す記号
	行為を指示する記号

「警告」「注意」について

誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を区分して掲載しています。

 警告	「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。
 注意	「傷害を負う可能性が想定される」内容です。

警告

電源



禁止

電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものをのせない。

電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。



禁止

雷が鳴っているときは、本製品や電源プラグに触らない。

感電の原因になります。



必ず実行

電源は必ず交流100 Vを使用する。

エアコンの電源など交流 200 V のものがあります。誤って接続すると、火災、感電、または故障の原因になります。



必ず実行

電源アダプター / 電源コードは、必ず付属のものを使用する。

火災、やけど、または故障の原因になります。



禁止

付属の電源アダプター / 電源コードをほかの機器に使用しない。

火災、やけど、または故障の原因になります。



必ず実行

電源プラグを定期的に確認し、ほこりが付着している場合はきれいに拭き取る。

ショートして火災や感電の原因になります。



必ず実行

電源プラグは、コンセントの奥まで確実に差し込む。

差し込みが不十分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積したりして火災ややけどの原因になります。



必ず実行

電源プラグは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。

万一の場合、電源プラグを容易に引き抜くためです。電源を切った状態でも電源プラグをコンセントから抜かないかぎり電源から完全に遮断されません。



禁止

たこ足配線をしない。

音質が劣化するほか、コンセント部が異常発熱し、火災の原因になります。



必ず実行

電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。

電源コードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。



電源プラグ
を抜く

長期間使用しないときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。

火災や故障の原因になります。

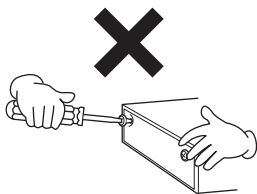
分解禁止



禁止

本製品を分解したり改造したりしない。

感電や火災、けが、または故障の原因になります。本製品の内部には、お客様が修理や交換できる部品はありません。



水に注意



禁止

・浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところや水がかかる場所で使用しない。

・本製品の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。

・電源アダプターは、室内専用のため屋外では使用しない。

内部に水などの液体が入ると、火災や感電、または故障の原因になります。



禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電のおそれがあります。

火に注意



禁止

本製品の近くで、火気を使用しない。

火災の原因になります。

ワイヤレス機器



禁止

・医療機器の近くなど、電波の使用が制限された区域で使用しない。

・心臓ペースメーカーや除細動器の装着部分から15 cm以内で使用しない。

本製品が発生する電波により、動作に影響があるおそれがあります。

椅子



禁止

椅子を滑りやすい床面や平らでない床面で使用しない。

椅子が転倒して、お客様やほかの方々へけがをするおそれがあります。



禁止

椅子で遊んだり、椅子を踏み台にしたりしない。

椅子が転倒したり壊れたりして、お客様へけがをする原因になります。



禁止

椅子には2人以上ですわらない。

椅子が転倒したり壊れたりして、お客様へけがをする原因になります。



必ず実行

椅子のネジを定期的に締め直す。

椅子を長期間使用すると、椅子のネジがゆるみ、お客様へけがをする原因になります。ネジがゆるんだ場合は、工具で締め直してください。



必ず実行

小さなお子様の後方への転倒に注意する。

背もたれがないため、後方へ転倒してけがをするおそれがあります。

異常に気づいたら



下記のような異常が発生した場合、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

必ず実行

- ・電源コード/プラグが破損した場合
- ・製品から異常なおいや煙が出た場合
- ・製品の内部に水や異物が入った場合
- ・使用中に音が出なくなった場合
- ・製品に亀裂、破損がある場合

そのまま使用を続けると、感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店または46ページの修理ご相談センターに点検や修理をご依頼ください。



注意

組み立て



本書の組み立て方の説明をよく読み、手順どおりに組み立てる。また、定期的にネジを締め直す。

必ず実行

破損したりお客様がけがをしたりする原因になります。

設置



禁止

不安定な場所や振動の多い場所に置かない。

本製品が転倒して故障したり、けがをしたりする原因になります。



必ず実行

地震のときは、本製品から離れる。

地震による強い揺れで動いたり転倒したりして、けがをするおそれがあります。



必ず実行

本製品を持ち上げて運ぶ場合は、必ず2人以上で行う。

本製品を1人で無理に持ち上げると、腰を痛めるおそれがあります。また、本製品が落下してけがや破損の原因になります。



必ず実行

本製品を移動するときは、必ずすべての接続ケーブルを外した上で行う。

ケーブルをいためたり、お客様やほかの方々が転倒したりするおそれがあります。

接続



必ず実行

ほかの機器とケーブルで接続する場合は、すべての電源を切ったうえで行う。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ずすべての機器の音量(ボリューム)を最小にする。

聴覚障害、感電または機器の損傷の原因になります。



必ず実行

演奏を始める前に機器のボリュームを最小にし、演奏しながら徐々にボリュームを上げて、適切な音量にする。

聴覚障害または機器の損傷の原因になります。

取り扱い



禁止

鍵盤蓋や本製品のすき間に手や指を入れない。また、鍵盤蓋で指などはさまないように注意する。

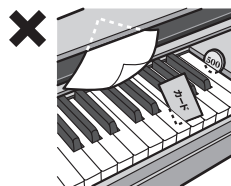
お客様がけがをするおそれがあります。



禁止

本製品の鍵盤蓋やパネル、鍵盤のすき間から金属や紙片などの異物を入れない。

火災、感電、故障や動作不良の原因になります。



禁止

本体の上にとったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。

本体が破損したり、お客様やほかの方々がけがをしたりする原因になります。



禁止

小さな部品は、乳幼児の手の届くところに置かない。

お子様が誤って飲み込むおそれがあります。



禁止

大きな音量で長時間使用しない。

聴覚障害の原因になります。特にヘッドホンを使用する場合はご注意ください。万一、聴力低下や耳障りを感じた場合は、専門の医師にご相談ください。



必ず実行

本製品のお手入れをするときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。

感電の原因になります。

椅子



禁止

椅子にすわったままで椅子の高さを調節しない。

高低調節機構に無理な力が加わり、高低調節機構が壊れたりお客様がけがをしたりする原因になります。



禁止

椅子の可動部のすきまに手を入れない。

手をはさんでけがをすることがあります。

- データが破損したり失われたりした場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。
- 不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。

使用後は、必ず電源を切りましょう。

[⏻](スタンバイ/オン)スイッチを切った状態(電源ランプが消えている)でも微電流が流れています。[⏻](スタンバイ/オン)スイッチが切れているときの消費電力は、最小限の値で設計されています。この製品を長時間使用しないときは必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 適合品

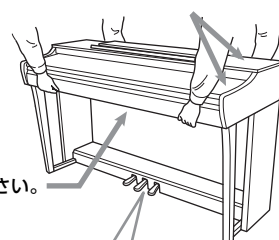
(DMI-11)

楽器の移動と設置

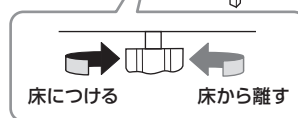
楽器を移動するときは、必ず2人以上で水平にして運び、大きな振動や衝撃を与えないでください。また、設置後は、各部のネジを確認し、ゆるんでいる場合は締め直してください。

引っ越しの際は、通常の荷物と同様に運べます。組み立てた状態でも、解体した状態でも構いません。

ここを持たないでください。



ここを持ってください。



床につける

床から離す



注意

必ず本体の底面を持ってください。底面以外の部分を持って移動すると本体が破損したり、お客様がけがをしたりする原因になります。

ご注意

楽器を移動する前には、必ずペダル下のアジャスターを回し、床から離してください。床を傷つける原因になります。

使用上のご注意

「故障、損傷や誤動作、データの損失の発生が想定される」内容です。以下の内容をよく読んでお使いください。

■ 製品の取り扱いに関する注意

- テレビやラジオ、ステレオ、携帯電話など他の電気製品の近くで使用しないでください。楽器本体またはテレビやラジオなどに雑音が生じる場合があります。
- スマートフォン、タブレット端末などのスマートデバイスのアプリと一緒に使用する場合は、通信によるノイズを避けるためスマートデバイスの機内モードをオンにしてお使いいただくことをおすすめします。楽器と無線で接続するときは、スマートデバイスのBluetooth®の設定がオンになっていることを確認してください。
- 直射日光のあたる場所(日中の車内など)やストーブの近くなど極端に温度が高くなると、逆に温度が極端に低いところ、また、ほこりや振動の多いところで使用しないでください。本体が変形したり、内部の部品が故障したり、動作が不安定になったりする原因になります(5°C~40°Cの範囲で動作することを確認しています)。
- 本体上にビニール製品やプラスチック製品、ゴム製品などを置かないでください。本体が変色/変質する原因になります。
- 椅子の脚で床やたたみを傷つけないよう注意してご使用ください。椅子の下にマットを敷くなどして、床やたたみを保護されることをおすすめします。

■ 製品のお手入れに関する注意

- お手入れの際は、乾いた柔らかい布、または水を含ませた柔らかい布を固くしぼってご使用ください。ベンジンやシンナー、アルコール、洗剤、化学ぞうきんなどは、変色/変質の原因になりますので、使用しないでください。
- 極端に温湿度が変化すると、本体表面に水滴がつく(結露する)ことがあります。水滴をそのまま放置すると、木部が水分を吸収して変形する原因になります。水滴がついた場合は、柔らかい布ですぐに拭きとってください。
- ペダルは一般的なアコースティックピアノ同様、経年変化によって変色することがあります。その際はピアノ用コンパウンドを楽器店などで買い求めいただき、使用上の注意をよくご確認のうえご使用ください。

■ データの保存に関する注意

- 本製品の一部のデータ(33ページ)は自動的に保存され、電源を切っても消えません。ただし保存されたデータは故障や誤操作などのために失われることがあります。

お知らせ

■ データの著作権に関するお願い

- 本製品に搭載されている「コンテンツ」*1の著作権は、ヤマハ(株)もしくはその著作権者に帰属します。私的使用のための複製など著作権法上認められている場合を除いて、権利者に無断で「複製または転用」*2することは禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどのご配慮をお願いします。なお、製品本来の使用を通して、上記コンテンツを使用した音楽制作や演奏を行い、それらを録音して配布する場合、配布方法が有償、無償を問わずヤマハ(株)の許諾は必要ありません。

*1:「コンテンツ」には、コンピュータープログラム、サウンドデータ、伴奏スタイルデータ、MIDIデータ、WAVEデータ、音声記録データ、楽譜や楽譜データなどを含みます。

*2:「複製または転用」には、この製品に内蔵または同梱されたコンテンツそのものを取り出すこと、もしくは酷似した形態で記録/録音して配布することを含みます。

■ 製品に搭載されている機能/データに関するお知らせ

- 内蔵曲は、曲の長さやイメージが原曲と異なる場合があります。

■ オープンソースソフトウェアに関するお知らせ

- 本製品のファームウェアにはオープンソースソフトウェアが含まれています。各オープンソースソフトウェアの著作権情報と使用条件は、下記ウェブサイトの「資料/データ」から確認できます。

サポート・お問い合わせ:

<https://jp.yamaha.com/support/>

■ 取扱説明書の記載内容に関するお知らせ

- この取扱説明書に掲載されているイラストや画面は、すべて説明のためのものです。
- Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- Bluetooth®ワードマークおよびロゴは登録商標であり、Bluetooth SIG, Inc.が所有権を有します。ヤマハ株式会社は使用許諾の下でこれらのマークおよびロゴを使用しています。



- MIDIは、一般社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。
- その他、本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。

■ 調律について

- 調律の必要はありません。電源を入れるといつでも正しいピッチ(音の高さ)でお使いいただけます。

■ 廃棄に関するお知らせ

- 本製品を廃棄するときは、地方自治体の条例に従って処理してください。詳しくは、各地方自治体にお問い合わせください。

■ Bluetooth[®]に関するお知らせ

Bluetoothとは、2.4 GHz帯の電波を利用して、対応する機器と無線で通信を行うことができる技術です。

• Bluetooth通信の取り扱いについて

- Bluetooth対応機器が使用する2.4 GHz帯は、さまざまな機器が共有する周波数帯です。Bluetooth対応機器は、同じ周波数帯を使用する機器からの影響を最小限に抑えるための技術を採用していますが、他の機器の影響によって通信速度や通信距離が低下することや、通信が切断されることがあります。
- 通信機器間の距離や障害物、電波状況、機器の種類により、通信速度や通信距離は異なります。
- 本製品はすべてのBluetooth機能対応機器とのワイヤレス接続を保証するものではありません。

• 製品の取り扱いに関する注意

- 本製品は、日本国内でのみ使用できます。
- 本製品は、日本電波法に基づく認証を受けた無線機器を内蔵しております。従って、本製品を使用するときに無線局の免許は不要です。ただし、本製品に以下の行為を行うと法律で罰せられることがあります。
 - 本製品を分解/改造する
 - 本体底面の銘板をはがしたり、消したりする

• 無線に関する注意

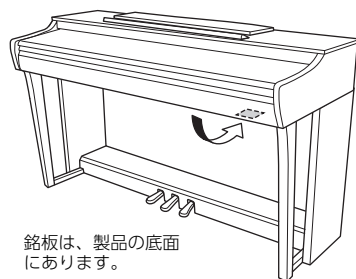
本製品の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を要する無線局)および特定小電力無線局(免許を要しない無線局)並びにアマチュア無線局(免許を要する無線局)が運用されています。

- 1 この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
- 2 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用場所を変えるか、または機器の運用を停止(電波の発射を停止)してください。

機種名(品番)、製造番号(シリアルナンバー)、電源条件などの情報は、製品の底面にある銘板または銘板付近に表示されています。製品を紛失した場合などでもご自身のものを特定していただけるよう、機種名と製造番号については以下の欄にご記入のうえ、大切に保管していただくことをおすすめします。

機種名

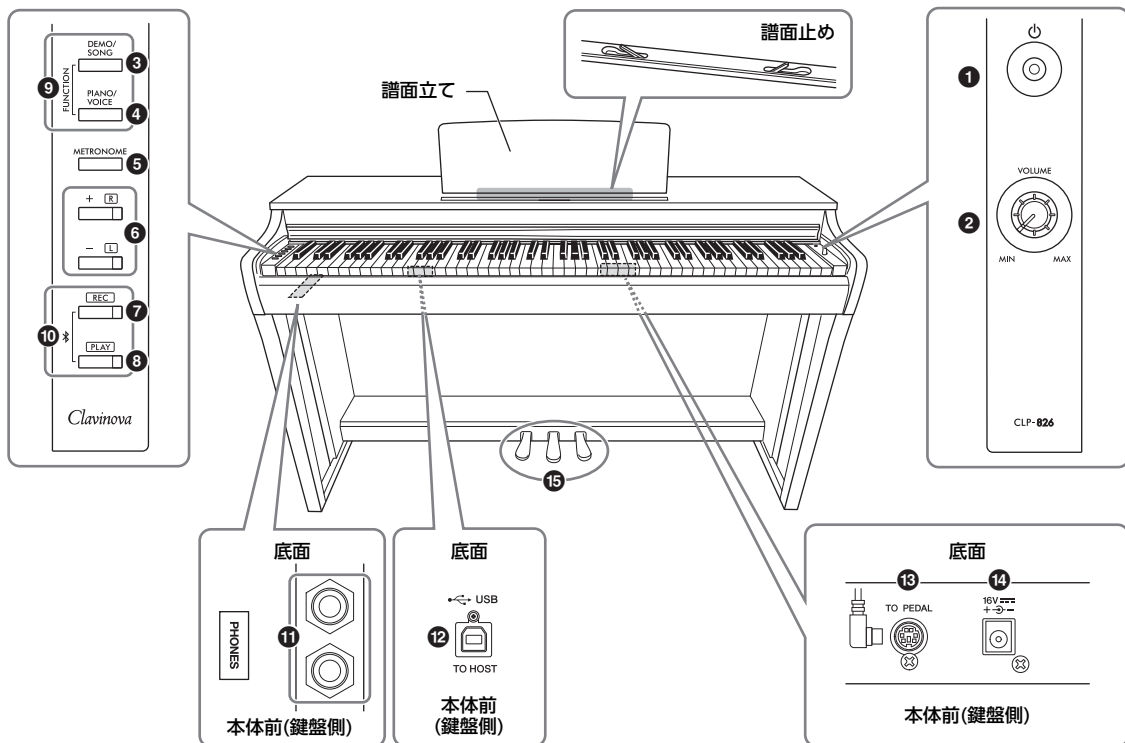
製造番号



銘板は、製品の底面にあります。

(1003-M06 plate bottom ja 01)

各部の名称と機能



① [⏻] (スタンバイ/オン) スイッチ (12 ページ)

電源のオン/スタンバイを切り替えます。

② [VOLUME] つまみ (12 ページ)

楽器全体の音量を調節します。右に回すと音量が上がり、左に回すと音量が下がります。

③ [DEMO/SONG] ボタン (20、25 ページ)

音色ごとのデモ曲やプリセットソング (クラシック名曲50選、レッスン曲) を聞くことができます。

④ [PIANO/VOICE] ボタン (19、21、23 ページ)

音色を選択したり、2つの音色を重ねたり、リバーブタイプの選択に使用します。

⑤ [METRONOME] ボタン (18 ページ)

メトロノームの機能を利用できます。

⑥ [+R]、[-L] ボタン (18、19、25、26 ページ)

- ・ ソングナンバーやテンポを増減します。
- ・ ソング再生中は、右手パート、左手パートを個別にオン/オフします。

⑦ [REC] ボタン (27 ページ)

自分の演奏を録音します。

⑧ [PLAY] ボタン (27 ページ)

録音した演奏を再生します。

⑨ [FUNCTION] (12、22 ページ)

[DEMO/SONG] と [PIANO/VOICE] を同時に押したまま、指定した鍵盤を押すことによりオートパワーフ機能やトランスポーズなどの設定ができます。

⑩ Bluetooth (30 ページ)

スマートフォンなどのBluetooth対応機器を接続するときに使います。

⑪ [PHONES] 端子 (13 ページ)

ヘッドホンを接続します。

⑫ [USB TO HOST] 端子 (29 ページ)

コンピューター、スマートフォンやタブレット端末などのスマートデバイスと接続します。

⑬ [TO PEDAL] 端子 (38 ページ)

ペダルコードを接続します。別売のペダルユニット FC35 を使用する場合はこの端子に接続します。

⑭ DC IN 端子 (12 ページ)

付属の電源アダプターを接続します。

⑮ ペダル (15 ページ)

アコースティックピアノのように、音を響かせたり音質をやわらかくしたりするときに使用します。

ご使用前の準備

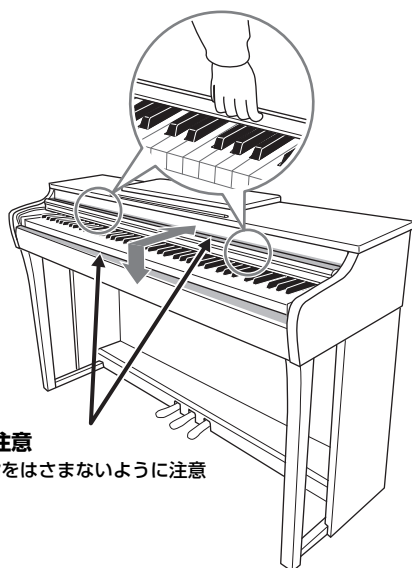
鍵盤蓋を開ける/閉める

開けるとき

少し持ち上げて、奥へ押し込みます。

閉めるとき

手前に引いて、静かに降ろします。



注意

手や指をはさまないように注意

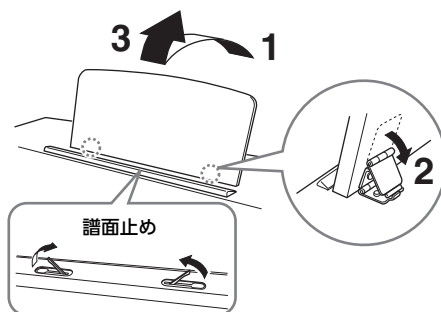


注意

- 鍵盤蓋を開閉するときは、両手で静かに行い、途中で手を離さないでください。また、ご自分や周りの方、特にお子様などが、鍵盤蓋の端と本体の間に手や指をはさまないようにご注意ください。
- 鍵盤蓋を開けるとき、鍵盤蓋の上に金属や紙片などを置かないでください。本体の内部に落ちて取り出せなくなり、感電、ショート、発火や故障などの原因になります。

譜面立てを使う

立てるとき



譜面止めを使うと、譜面立てに置いた楽譜のページを固定できます。

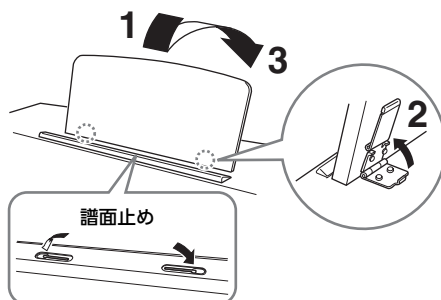


注意

金具が固定されていない位置で譜面立てを使用したり、放置したりしないでください。また、譜面立てを立てたり倒したりするときは、途中で手を離さないでください。

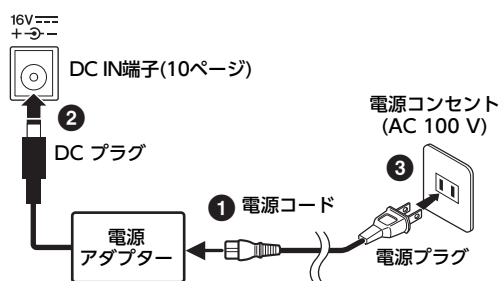
倒すとき

譜面止めを使っている場合は、譜面止めを下ろしてから、下図の順序で譜面立てを倒します。



電源を入れる/切る

1. 図の順序で電源アダプターを接続します。



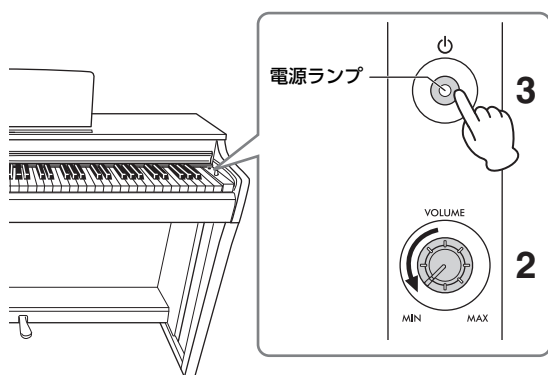
警告

- 電源アダプター/電源コードは、必ず付属のものをご使用ください。また、付属の電源アダプター/電源コードをほかの製品に使用しないでください。故障、発熱、火災などの原因になります。
- 本体はコンセントの近くに設置し、異常を感じた場合にはすぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

NOTE

電源アダプターを外すときは、電源を切ってから、逆の手順で行ってください。

2. [VOLUME]つまみで音量を最小(MIN)にします。



3. [⏻](スタンバイ/オン)スイッチを押して電源を入れます。

スイッチ中央の電源ランプが点灯します。
鍵盤を演奏しながら[VOLUME]つまみで音量を調節します。

楽器を使い終わったら、[⏻](スタンバイ/オン)スイッチを1秒押して、電源を切ります。電源ランプは消灯します。

警告

電源を切った状態でも微電流が流れています。この楽器を長時間使用しないときは、必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。

注意

大きな音量で長時間使用しないでください。聴覚障害の原因になります。

ご注意

電源を入れてから、楽器が完全に起動するまで、楽器を操作(鍵盤やボタンを押す、ペダルを踏むなど)しないでください。楽器が誤動作する原因になります。

オートパワーオフ機能

電源の切り忘れによる無駄な電力消費を防ぐための機能です。この機能により、15分何も操作しないと自動的に電源が切れます。

オートパワーオフ機能の有効/無効を切り替える

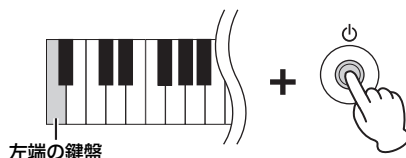
[DEMO/SONG]と[PIANO/VOICE]を同時に押したままA#0 (有効)またはA0 (無効)の鍵盤を押します。

初期設定: 有効



オートパワーオフ機能の簡単解除

電源を入れるときに、この機能をオフにできます。左端の鍵盤を押したまま[⏻](スタンバイ/オン)スイッチを押して電源を入れます。[REC]ランプが3回点滅し、オートパワーオフ機能が無効になります。

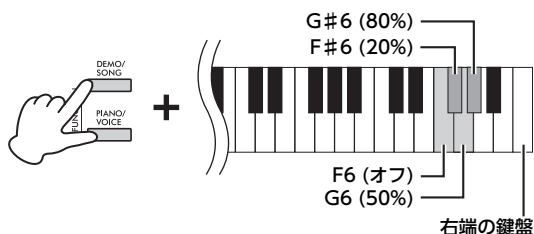


音量制限機能

意図せず大きな音量が出るのを防ぐため、最大音量を制限する機能です。この機能を「20%」「50%」「80%」に設定すると、[VOLUME]つまみを右に回しても、設定した値より音量が大きくなりません。

[DEMO/SONG]と[PIANO/VOICE]を同時に押したまま、F#6 (20%)、G6 (50%)またはG#6 (80%)の鍵盤を押して設定します。オフにするときは、F6の鍵盤を押します。

初期設定: オフ

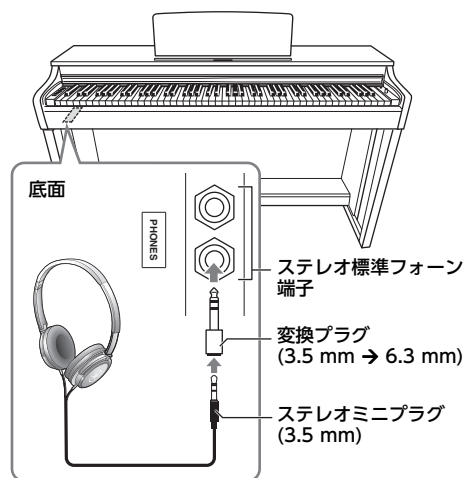


⚠ 注意

音量制限機能の設定を変更すると、[VOLUME]つまみの位置によっては、大音量で出力される場合があります。必ず[VOLUME]つまみを最小(MIN)にしてから設定を変更してください。

ヘッドホンを使う

この楽器には[PHONES]端子が2つあるので、ヘッドホンを2本接続して2人で演奏を楽しめます。



⚠ 注意

大きな音量で長時間ヘッドホンを使用しないでください。聴覚障害の原因になります。

NOTE

初期設定では、どちらかの[PHONES]端子にヘッドホンや変換プラグがささっていると、楽器のスピーカーから音が出ません。変換プラグを使用しているときは、ヘッドホンを外すときに必ず変換プラグも外してください。

ヘッドホンハンガーを使う

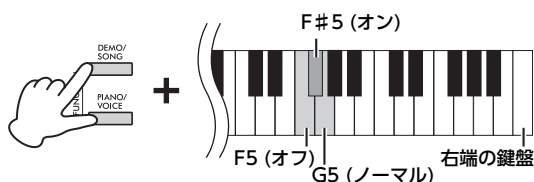
ヘッドホンハンガーにヘッドホンをかけることができます。ヘッドホンハンガーの取り付け方法は、「組み立て方」(36ページ)をご参照ください。

ご注意

ヘッドホンハンガーにヘッドホン以外のものを掛けないでください。本体またはヘッドホンハンガーが破損する場合があります。

スピーカーのオン/オフの設定

楽器本体のスピーカーから音を出す(オン)、出さない(オフ)を設定できます。[DEMO/SONG]と[PIANO/VOICE]を同時に押したままF5～G5の鍵盤を押します。



- **オフ(F5鍵盤):** 常にスピーカーから音が出ません。
- **オン(F#5鍵盤):** ヘッドホンが接続されていても、常にスピーカーから音が出ます。
- **ノーマル(G5鍵盤):** ヘッドホンが接続されると、スピーカーから音が出なくなります。(初期設定)

NOTE

この設定がオンのとき、バイノーラルサンプリングとステレオフォニックオプティマイザー(右コラム)は無効になります。

ヘッドホンでも自然な音の広がりを再現する(バイノーラルサンプリングとステレオフォニックオプティマイザー)

この楽器では、ヘッドホン使用時に臨場感のある音をお楽しみいただくため、以下の2つの方式を採用しています。

バイノーラルサンプリング(「CFX グランド」の音色のみ)

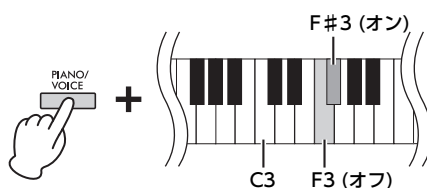
バイノーラルサンプリングとは、演奏者の耳と同じ位置に専用のマイクを備え付け、聞こえてくるピアノの音をそのままサンプリングする方式です。ヘッドホンを通して聞いても、あたかもピアノ本体から音が響いてくるような臨場感をお楽しみいただけます。初期設定の「CFX グランド」の音色(19ページ)が選ばれているときにヘッドホンを接続すると、バイノーラルサンプリングの音に切り替わります。

ステレオフォニックオプティマイザー(「CFX グランド」以外のピアノ音色)

ステレオフォニックオプティマイザーは、ヘッドホン使用時に自然な音の広がりを再現するエフェクトです。「CFX グランド」以外のピアノ音色を選んでいるときにヘッドホンを接続すると、ステレオフォニックオプティマイザーがかかります。

[PIANO/VOICE]を押したまま、F#3鍵盤を押すとオン、F3鍵盤を押すとオフになります。

初期設定: オン



NOTE

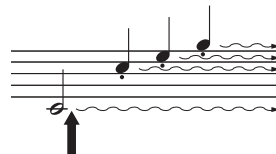
- ピアノ以外の音色には、ステレオフォニックオプティマイザーの効果はかかりません(19ページ)。
- スピーカーのオン/オフ設定がオンのとき、ステレオフォニックオプティマイザーは無効になります。

ピアノとして演奏する

ペダルを使う

右のペダル(ダンパーペダル)

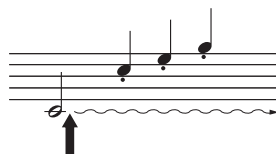
このペダルを踏んでいる間、鍵盤から指を離しても弾いた音は長く響きます。このペダルはハーフペダル機能に対応しています。



ここでダンパーペダルを踏むと、このとき押さえていた鍵盤とそのあと弾いた音すべてが長く響く。

まん中のペダル(ソステヌートペダル)

このペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音だけを、鍵盤から指を離しても長く響かせることができます。ペダルを踏んだあとに弾いた音には効果はかかりません。



ここでソステヌートペダルを踏むと、このとき押さえていた鍵盤の音だけが長く響く。

左のペダル(ソフトペダル)

このペダルを踏んでいる間、ペダルを踏んだあとに弾いた音量をわずかに下げ、音の響きを柔らかくします。ペダルを踏む前に押さえていた鍵盤の音には効果はかかりません。

NOTE

ペダルが効かない場合、楽器の電源を切り、ペダルコードのプラグが[TO PEDAL]端子に確実に差し込まれているか確認してください(38ページ)。

ハーフペダル機能とは

ペダルの踏み加減で音の伸び具合が調節できる機能です。ペダルを踏みこむほど音が長く伸びます。ペダルを踏んで音が響きすぎたとき、踏み込んだ状態からペダルを少し戻して音の響きを抑える(音の濁りを減らす)ことができます。

NOTE

オルガンやストリングスの音色(19ページ)では、ソステヌートペダルを踏むと、音が減衰せず、踏んでいる間鳴り続けます。

NOTE

ジャズオルガンの音色(19ページ)を選ぶとロータリースピーカーの回転の速い/遅いが切り替わり、ビブラフォンの音色(19ページ)を選ぶとビブラートのオン/オフ機能に切り替わります。

[TO PEDAL] 端子

ペダルコードのプラグは、右図で示した向きで、金具部分が見えなくなるまで[TO PEDAL]端子にしっかり差し込んでください。しっかり差し込まれていない場合、ペダルが機能しない原因になります。この端子には、別売のペダルユニットFC35も接続できます。本体のペダルに足が届かない場合など、FC35を接続して適切な高さの台にのせることで、本体ペダルの代わりに使えます。

⚠ 注意

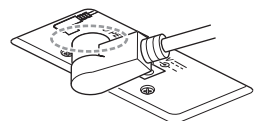
FC35を台にのせる場合は、ペダルを踏んだときにぐらついたり落下することのないよう、平らで十分な大きさの台を使用してください。

ご注意

プラグの向きを間違えないようにご注意ください。間違った向きで無理に差し込もうとすると故障の原因になります。

NOTE

プラグの抜き差しは、電源を切った状態で行ってください。



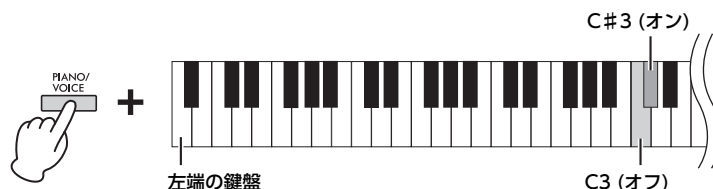
プラグの金具部分が見えなくなるまでしっかり差し込んでください。

バーチャル・レゾナンス・モデリング(VRM)の設定

VRM (バーチャル・レゾナンス・モデリング)とは、グランドピアノに特有の、響板と弦の共鳴音を忠実に再現する技術です。CFX グランド、ベーゼンドルファー、ポップ グランドの音色(19ページ)を選んでいときにダンパーペダルを踏むと、VRMの効果がかけられます。VRMについて詳しくは35ページをご覧ください。

[PIANO/VOICE]を押したまま、C3(オフ)またはC#3(オン)鍵盤を押します。

初期設定: オン



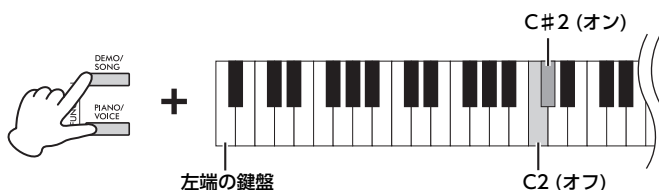
インテリジェント・アコースティック・コントロール(IAC)を使う

インテリジェント・アコースティック・コントロール(IAC)とは、楽器の全体音量の大小に応じて、自動的にスピーカーやヘッドホンの音質を補正する機能です。音量が小さい場合でも、低音や高音がしっかりと聞こえるようになります。特にヘッドホン使用時には、全体音量を過度に上げることなく、耳への負担を抑えることができます。

IACのオン/オフの設定

[DEMO/SONG]と[PIANO/VOICE]を同時に押したまま、C#2 (オン)またはC2 (オフ)鍵盤を押します。

初期設定: オン

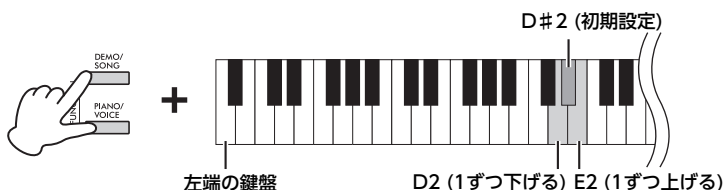


IACのかかり具合を調整する

[DEMO/SONG]と[PIANO/VOICE]を同時に押したまま、D2 (1ずつ下げる)またはE2 (1ずつ上げる)鍵盤を押して補正のかかり具合を調整します。

設定範囲: -3 ~ +3

初期設定: 0



IACのかかり具合の値が大きいくほど、音量が小さいときの低音や高音が、よりしっかりと聞こえるように補正されます。

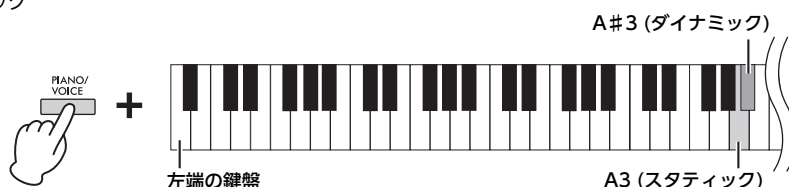
グランド・エクスプレッション・モデリングの設定

グランド・エクスプレッション・モデリングとは、アコースティックピアノの音の微妙な変化を再現する技術です。CFX グランド、ベーゼンドルファー、ポップ グランドの音色(19ページ)を選んでいるときにこの効果がかかります。グランド・エクスプレッション・モデリングについて詳しくは35ページをご覧ください。

[PIANO/VOICE]を押したまま、A3またはA#3鍵盤を押して、グランド・エクスプレッション・モデリングのタイプを選びます。

- **ダイナミック(A#3):** 鍵盤を弾く強さやタッチに応じて、アコースティックピアノのように音が微妙に変化します。
- **スタティック(A3):** 弾き方を変えても、音はさほど変化しません。

初期設定: ダイナミック



鍵盤の操作音の設定

ボタンと鍵盤を使って設定を変更したときに、操作音(クリック音、またはオン/オフや数値の読み上げ音声)が鳴ります。この操作音は必要に応じて、オン(鳴らす)、オフ(鳴らさない)の設定ができます。

[DEMO/SONG]と[PIANO/VOICE]を同時に押したまま、A#-1 (オン)またはA-1 (オフ)鍵盤を押します。

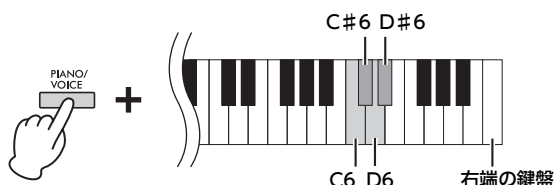
初期設定: オン



鍵盤のタッチ感度を変える

鍵盤を弾く強さを変えたときの、音の強弱の付き方(タッチ感度)を、4種類の中から選びます(鍵盤自体の重さは変わりません)。

[PIANO/VOICE]を押したままC6〜D#6の鍵盤を押して、タッチ感度を設定します。



NOTE

オルガンなど一部の音色では、タッチによる音の強弱は付きません。

初期設定:
ミディアム

鍵盤	タッチ感度	説明
C6	ソフト	軽いタッチで大きい音が出ます。比較的音のつづがそろいやすいタッチです。
C#6	ミディアム	標準的なタッチです。
D6	ハード	大きな音を出すためには、より強いタッチで弾いてください。
D#6	固定	タッチの強弱にかかわらず一定の音量が出ます。

メトロノームを使う

この楽器は、メトロノームを備えています。ご活用ください。

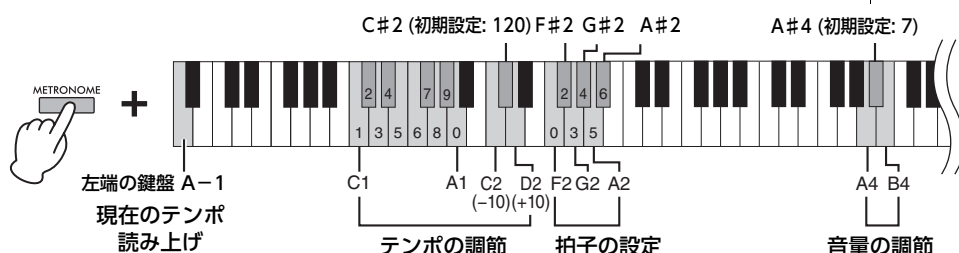
1. [METRONOME]を押すと、メトロノームが鳴り出します。

[+R]または[−L]を押すと、テンポを調節できます。

2. [METRONOME]を押すと、メトロノームは止まります。

メトロノームの設定

[METRONOME]を押したまま、下図のグレーの鍵盤または[+R]/[−L]のどれかを押すことで、メトロノームの設定ができます。



現在のテンポの値を音声(英語)で読み上げる

[METRONOME]を押したままA−1鍵盤(左端の鍵盤)を押します。

テンポの調節

メトロノームを5〜280 (1分間の拍数)の範囲で設定できます。

• テンポを1ずつ上げる/下げる

[METRONOME]を押したまま[+R]または[−L]を押します。

メトロノームが鳴っているときは、[+R]または[−L]を押してテンポを1ずつ上げたり下げたりできます。

• テンポを10ずつ上げる/下げる

[METRONOME]を押したままD2 (上げる)またはC2 (下げる)鍵盤を押します。

• テンポを数値入力する

[METRONOME]を押したままC1〜A1鍵盤のどれかを押して、数値を設定します。2桁までの数値を入力して[METRONOME]から指を離すか、3桁の数値を入力すると、数値が確定します。

• テンポを初期設定(120)に戻す

[METRONOME]を押したまま、[+R]と[−L]を同時に押すか、C#2鍵盤を押します。メトロノームが鳴っているときは、[+R]と[−L]を同時に押すと、テンポを初期設定に戻せます。

拍子の設定

[METRONOME]を押したままF2〜A#2鍵盤のどれかを押します。たとえば、3 (G2)に設定すると「チーンカチカチ」と鳴ります。初期設定は拍子なし(F2)です。この場合すべての拍で「カチカチ」と鳴ります。

音量の調節

[METRONOME]を押したままA4 (1ずつ下げる)またはB4 (1ずつ上げる)鍵盤を押して音量を設定します。初期設定に戻すには[METRONOME]を押したままA#4鍵盤を押します。

NOTE

テンポの数値入力では、入力した数値を音声(英語)で読み上げます。設定範囲外の数値が入力された場合は操作が無効になります。

鍵盤	拍子
F2	0 (拍子なし)
F#2	2
G2	3
G#2	4
A2	5
A#2	6

設定範囲:

1〜10

初期設定:

7

音色を楽しむ

音色を選ぶ

CFX グランドを選ぶには

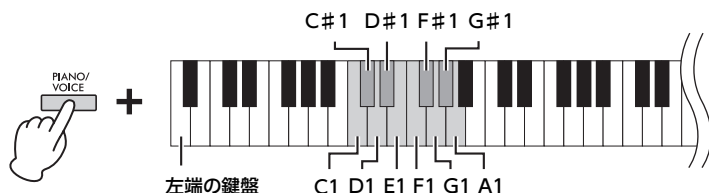
[PIANO/VOICE]を1回押します。

ほかの音色を選ぶには

[PIANO/VOICE]を押したあと、[+R]または[-L]を押して、音色を順次切り替えます。

特定の音色を直接選ぶには

[PIANO/VOICE]を押したままC1〜A1鍵盤のどれかを押します。各鍵盤に割り当てられた音色は、以下のリストをご参照ください。



NOTE

音色の特徴をつかむには、音色ごとのデモ曲を聞いてみてください。(20ページ)

NOTE

VOICE(ボイス) = 音色(楽器音)

音色リスト

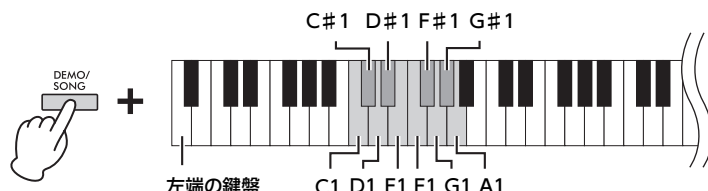
鍵盤	音色名	音色説明
C1	CFX グランド	ヤマハコンサートグランドピアノCFXからサンプリングされたこの音色は、弱いタッチから強いタッチまでのなめらかな音色変化が表現できます。クラシックはもちろん、どんなジャンルのピアノ曲にも合います。
	バイノーラル CFX グランド	ヤマハコンサートグランドピアノCFXをヘッドホン再生に適するようにバイノーラルサンプリング録音した音です。あたかも目の前でグランドピアノが鳴っているかのような臨場感をお楽しみいただけます。「CFX グランド」の音色を選択してヘッドホンを接続したときに自動的に選ばれます。
C#1	ベーゼンドルファー	ウィーンで有名なベーゼンドルファー社のコンサートグランドピアノ、インペリアル音です。ピアノの大きさを感じさせる広がりある音が特徴で、曲の優しさを表現するのに適しています。
D1	ポップ グランド	ブライトなピアノの音です。クリアに音を目立たせたい曲に最適です。
D#1	ステージ エレピ	音叉をハンマーでたたいて発音させるしくみの電気ピアノの音です。弱く弾いたときは柔らかく、強く弾くと芯のある音がします。
E1	DX エレピ	FMシンセサイザーによる電子ピアノの音です。タッチの強弱に応じて音色の変化も楽しめます。ポピュラー音楽に最適です。
F1	ハーブシコード	バロック音楽でよく使われる楽器の音です。タッチによって音量は変わらず、鍵盤を離したときには独特の発音があります。
F#1	ビブラフォン	比較的柔らかなマレットでたたいたビブラフォンの音です。強く弾くほど金属的な音になります。
G1	パイプ オルガン	パイプオルガンのプリンシパル系(金管楽器系)の混合音栓の音(8フィート+4フィート+2フィート)です。バロック時代の教会音楽の演奏に適しています。
G#1	ジャズ オルガン	歯車回転式電気オルガンの音です。ジャズ、ロックなどの音楽でよく用いられます。
A1	ストリングス	ステレオサンプリングでリアルな響きがする大編成弦楽アンサンブルの音です。ピアノとのデュアルでも楽しめます。

デモ曲を聞く

この楽器には、音色ごとに1曲ずつデモ曲が入っています。聞いてみましょう。

1. [DEMO/SONG]を押します。

今選ばれている音色のデモ曲がスタートします。再生中は[PLAY]のランプがテンポに合わせて点滅します。デモ曲は、選択した音色のデモ曲からデモ曲リストの順に連続して再生されます。特定のデモ曲を選択するには、[DEMO/SONG]を押したままC1～A1鍵盤のどれかを押します。



1曲を繰り返し再生する

[DEMO/SONG]を押したまま、C1～A1鍵盤のどれかを長押しします。操作音(17ページ)が2回鳴ると繰り返し再生が設定され、その曲が連続再生されます。

再生中に曲を切り替える

[+R]または[−L]を押します。

1曲繰り返し再生中にこの操作をすると、次または前の曲が繰り返し再生されます。

2. [DEMO/SONG]または[PLAY]を押して、再生をストップします。

[PLAY]のランプが消灯します。

デモ曲リスト

鍵盤	音色名	曲名	作曲者
C1	CFX グランド	ハンガリー狂詩曲 第10番「前奏曲」S.244 ホ長調	F. リスト
	パイノール CFX グランド		
C#1	ベーゼンドル ファー	献呈	F. リスト / R. シューマン
D1	ポップ グランド	オリジナル	—
D#1	ステージ エレピ	オリジナル	—
E1	DX エレピ	オリジナル	—
F1	ハーブシコード	チェンバロ協奏曲 第7番 ト短調 BWV 1058 第1楽章	J. S. バッハ
F#1	ビブラフォン	オリジナル	—
G1	パイプ オルガン	神のひとり子なる主キリスト (オルガン小曲集)	J. S. バッハ
G#1	ジャズ オルガン	オリジナル	—
A1	ストリングス	オリジナル	—

「オリジナル」は、ヤマハのオリジナル曲です。(© Yamaha Corporation)

「オリジナル」以外のデモ曲は、曲の長さやイメージが原曲と異なる場合があります。

NOTE

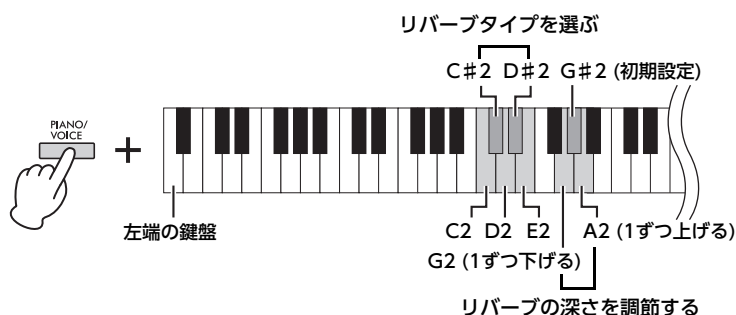
テンポは、デモ曲の再生中のみ変更できます。テンポの調整方法は、18ページをご覧ください。

音に残響を付ける(リバーブ)

この楽器にはいくつかのリバーブタイプが用意されており、コンサートホールやライブハウスで演奏しているような残響効果をかけたり、その深さ(かかり具合)を変えたりできます。リバーブタイプとその深さは、音色やソングを選択するだけで最適なものが自動で呼び出されます。したがって、通常は設定の必要はありませんが、自由に変更できます。

リバーブタイプを変更する

[PIANO/VOICE]を押したままC2～E2鍵盤のどれかを押します。



NOTE

デュアル(23ページ)のときのリバーブタイプは、音色の組み合わせによって最適なものが1つ自動で呼び出されます。

リバーブタイプリスト

鍵盤	リバーブタイプ	説明
C2	リサイタルホール	ピアノリサイタル向けの中規模ホールのクリアな響きになります。
C#2	コンサートホール	オーケストラの公演が行われる、大きなホールの華やかな響きになります。
D2	サロン	室内楽に適した、宮廷内の広間の落ち着いた響きになります。
D#2	クラブ	ライブハウスやジャズクラブのメリハリのある響きになります。
E2	オフ	リバーブはかかりません。

深さ(かかり具合)の調節

数値を上げるとリバーブが深くなり、下げるとリバーブが浅くなります。

[PIANO/VOICE]を押したままG2 (1ずつ下げる)またはA2 (1ずつ上げる)鍵盤を押します。

[PIANO/VOICE]を押したままG#2鍵盤を押すと、その音色に最適なリバーブの深さ(初期設定)に戻ります。

設定範囲:

0 (効果なし)～20 (深さ最大)

キー (調)を変える(トランスポーズ)

弾く鍵盤を変えずに、ほかの楽器や歌う人の声の高さに半音単位でキー (調)を合わせることができます。この機能をトランスポーズといいます。

たとえばトランスポーズを「+5」に設定すると、「ド」の鍵盤を弾いたときに「ファ」の音が出ることになり、「ハ長調」の弾きかたで「ヘ長調」の演奏になります。

キーを下げる

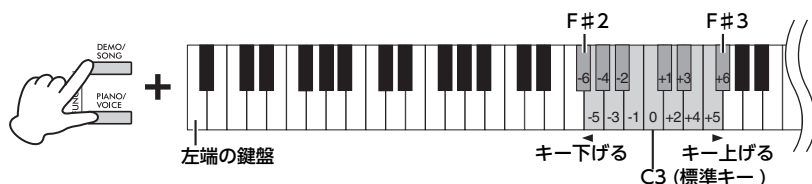
[DEMO/SONG]と[PIANO/VOICE]を同時に押したまま、F # 2 (−6)〜B2 (−1)鍵盤のどれかを押します。

キーを上げる

[DEMO/SONG]と[PIANO/VOICE]を同時に押したまま、C # 3 (+1)〜F # 3 (+6)鍵盤のどれかを押します。

キーを標準に戻す

[DEMO/SONG]と[PIANO/VOICE]を同時に押したまま、C3鍵盤を押します。



NOTE

トランスポーズは鍵盤演奏、ソング再生(25ページ)に有効です。それぞれ別々に異なる数値を設定することはできません。

設定範囲:

−6〜0〜+6

初期設定:

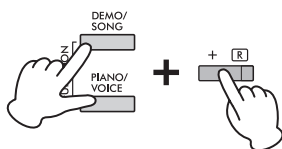
0

音の高さを微調整する(チューニング)

楽器全体の音の高さを0.2 Hz単位で微調整できます。ほかの楽器との合奏など、音の高さを正確に合わせたい場合に使います。

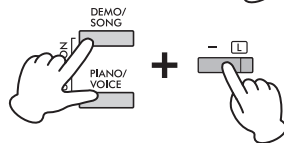
音の高さを上げる(約0.2 Hz単位)

[DEMO/SONG]と[PIANO/VOICE]を同時に押したまま、[+R]を押します。



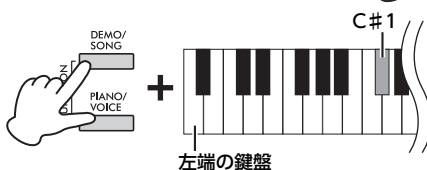
音の高さを下げる(約0.2 Hz単位)

[DEMO/SONG]と[PIANO/VOICE]を同時に押したまま、[−L]を押します。



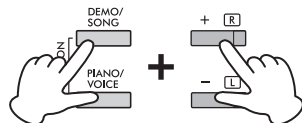
音の高さを442.0 Hzに設定する

[DEMO/SONG]と[PIANO/VOICE]を同時に押したまま、C # 1鍵盤を押します。



音の高さを初期設定値(440.0 Hz)に戻す

[DEMO/SONG]と[PIANO/VOICE]を同時に押したまま、[+R]と[−L]を同時に押します。または、[DEMO/SONG]と[PIANO/VOICE]を同時に押したまま、C1鍵盤を押します。



Hz (ヘルツ)とは

音の高さを示す単位です。音の高さは音波の振動数によって決まります。1秒間に何回振動するかという数値の単位がHzです。

設定範囲:

414.8〜466.8 Hz

初期設定:

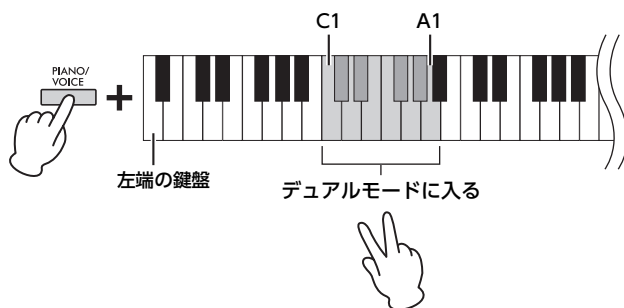
A3 = 440.0 Hz

2つの音色を重ねる(デュアル)

2種類の音色を重ねて鳴らすことができます。重ねて鳴らすことにより、厚みのある音を作り出せます。

1. デュアルモードに入ります。

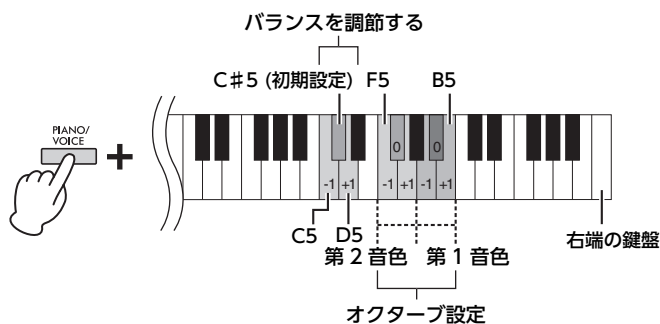
[PIANO/VOICE]を押したまま、C1～A1鍵盤のうち2つの鍵盤を同時に押して、重ねたい2つの音色を選びます。各鍵盤に割り当てられた音色は、「音色を選ぶ」(19ページ)をご参照ください。



上記の手順で選んだ2つの音色のうち、左側(C1)に近い鍵盤を割り当てられた音色が第1音色、右側(A1)に近い鍵盤を割り当てられた音色が第2音色になります。第1音色と第2音色に同じ音色を割り当てることはできません。

各音色のオクターブを上げる/下げる

下図を参考に、[PIANO/VOICE]を押したまま、F5～G5またはA5～B5鍵盤のどれかを押します。たとえば、[PIANO/VOICE]を押したままB5鍵盤を2回押すと、第1音色が2オクターブ上がります。初期設定に戻すには、[PIANO/VOICE]を押したままA#5鍵盤(第1音色)またはF#5鍵盤(第2音色)を押します。



2音色の音量バランスを調節する

上図を参考に、[PIANO/VOICE]を押したまま、C5 (1ずつ下げる)またはD5 (1ずつ上げる)鍵盤を押します。

設定値が0のとき、両音色は初期設定の音量になります。設定値が+6に近づくほど第1音色の音量が大きくなり、-6に近づくほど第2音色が大きくなります。

2. [PIANO/VOICE]を押して、デュアルモードを抜けます。

NOTE

デュアルとデュオ(24ページ)の機能は同時には使えません。

設定範囲:

-2~0~+2

設定範囲:

-6~(初期設定)~+6

初期設定:

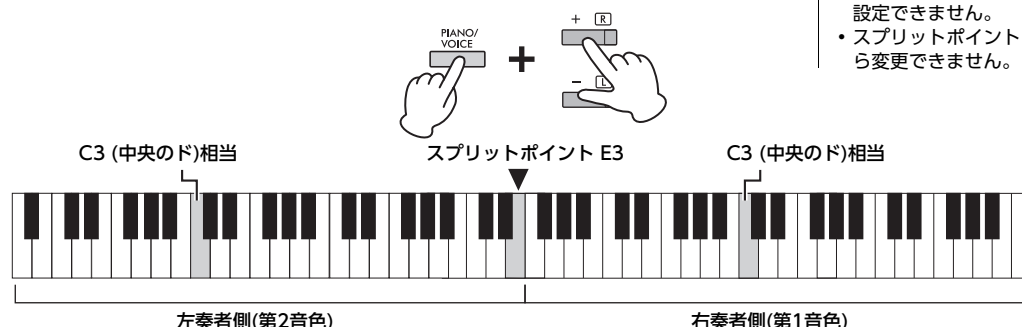
音色の組み合わせにより異なります。

2人で一緒に弾く(デュオ)

鍵盤を左右に分けて、同時に2人が同じ音域で演奏できます。1台の楽器で2人同時に演奏したり、2人並んで座り、1人がお手本を弾き、もう1人がそれを見ながら練習する、といった使い方ができます。

1. [PIANO/VOICE]を押したまま、[+R]と[−L]を同時に押します。

E3が鍵盤の境目(スプリットポイント)となり、左奏者側と右奏者側に分れます。



NOTE

- 右奏者側(第1音色)と左奏者側(第2音色)で異なる音色は設定できません。
- スプリットポイントはE3から変更できません。

2. 左側鍵域と右側鍵域に分かれて、2人で演奏しましょう。

左右の鍵域のオクターブを上げる/下げる

デュアルの「各音色のオクターブを上げる/下げる」(23ページ)と同じ操作です。デュオの場合、左側鍵域が第2音色、右側鍵域が第1音色になります。

左右の鍵域の音量バランスをとる

デュアルの「2音色の音量バランスを調節する」(23ページ)と同じ操作です。設定値が+6に近づくほど右側鍵域の音量が大きくなり、−6に近づくほど左側鍵域の音量が大きくなります。

デュオ機能でのペダル効果

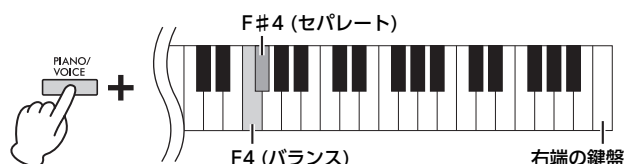
- ダンパーペダル: 右側鍵域のダンパー効果
- ソステヌートペダル: 左右両鍵域のダンパー効果
- ソフトペダル: 左側鍵域のダンパー効果

左右の音の出力バランスを設定する(デュオタイプ)

デュオのとき、左右のスピーカーから鳴らす音のバランスを設定します。

- セパレート: 鍵盤の左側領域の音を左側のスピーカーから、右側領域の音を右側のスピーカーから鳴らします。
- バランス: 両奏者の演奏音を両方のスピーカーから自然なバランスで鳴らします。

[PIANO/VOICE]を押したまま、F4鍵盤またはF#4鍵盤を押して設定します。



設定範囲:

−2〜0〜+2

設定範囲:

−6〜0〜+6

NOTE

ヘッドホンも同様の設定になります。

NOTE

- デュアルがオンの状態で、デュオに入るとデュアルは解除されます。音色は第1音色になります。
- デュオをオンにすると、VRMは無効になります。また「デュオタイプ」がセパレートのときは、リバーブとステレオフィニックオープンティマイザーも無効になります。

初期設定:

セパレート

3. デュオを解除するには、[PIANO/VOICE]を押したまま、[+R]と[−L]を同時に押します。

曲(ソング)を再生する、練習する

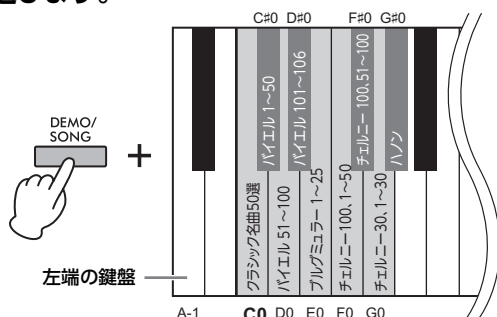
プリセットソング(クラシック名曲50選/レッスン曲)を聞く

この楽器には、音色のデモ曲の他にプリセットソング(クラシック名曲50選とレッスン曲の演奏データ)が入っています。

1. 曲の番号と曲集を調べます。

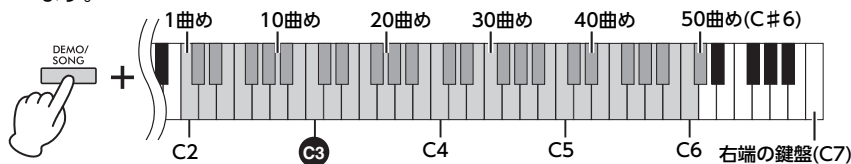
曲の番号と曲集は、ソング一覧(43ページ)、またはクイックオペレーションガイド(巻末)で確認できます。

2. [DEMO/SONG]を押したままC0~G#0鍵盤のいずれかを押して、曲集を選びます。



3. [DEMO/SONG]を押したまま聞きたいソングの鍵盤(C2~C#6鍵盤のいずれかを)押して、ソングの再生をスタートします。

C2~C#6鍵盤(以下参照)にはクラシック名曲50選/レッスン曲が割り当てられています。



再生中は[+R]、[-L]のランプが点灯し、[PLAY]のランプはテンポに合わせて点滅します。

曲は、選んだ曲集の中で順に連続して再生されます。最後の曲の再生が終わると、曲集の最初の曲に戻り再生が続きます。(停止の操作をするまで再生が続きます。)

1曲を繰り返し再生する

[DEMO/SONG]を押したまま、C2~C#6鍵盤のどれかを長押しします。操作音(17ページ)が2回鳴ると繰り返し再生が設定され、その曲が連続再生されます。

再生中に曲を切り替える

[+R]または[-L]を押します。

1曲繰り返し再生中にこの操作をすると、次または前の曲が繰り返し再生されます。

再生中にテンポを変更する

[METRONOME]を押したまま[+R]または[-L]を押して、1ずつテンポ値を増減します。そのほかの方法は、メトロノームの場合(18ページ)と同じです。

NOTE

SONG(ソング) = 曲

初期設定:

クラシック名曲50選

NOTE

曲集を変更すると、電源を切るまでその設定が保持されます。

NOTE

- クラシック名曲50選/レッスン曲の再生に合わせて、鍵盤を弾くことができます。その際、鍵盤の音色を変えることもできます。
- 選択している曲集によっては、すべての鍵盤にソングが割り当てられていないことがあります。ソング割り当てのない鍵盤を押しても何も反応しません。

曲の最初から再生する

曲の再生中、テンポを変更(25ページ)したあとで[+R]と[-L]を同時に押すと、そのままのテンポで曲の先頭から再生されます。

4. [DEMO/SONG]または[PLAY]を押して、再生をストップします。

[PLAY]、[+R]、[-L]のランプが消灯します。

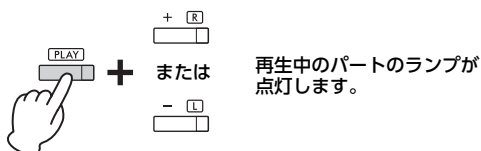
パートを指定して片手練習する

音色のデモ曲(20ページ)以外のソングは、パートごとに再生のオン/オフを設定できます。[+R]をオフにすれば右手の練習が、[-L]をオフにすれば左手の練習ができます。

1. プリセットソング(クラシック名曲50選/レッスン曲)(25ページ)またはユーザーソング(27ページ)を再生します。

2. [PLAY]を押したまま、[+R]または[-L]を押してオフにします。

[PLAY]を押したまま、同じボタンを押すたびに再生のオン/オフが切り替わります。



NOTE

- 他の曲を選ぶと、パートごとの再生のオン/オフ設定はリセットされます。
- 連弾曲のパートの割り当てについては43ページをご覧ください。
- ユーザーソングは、右手パートと左手パートをそれぞれ指定して録音した(27ページ手順2)場合のみ、パートごとに再生のオン/オフができます。

3. オフにしたパートを練習しましょう。

テンポを調節するには

必要に応じてテンポ調節ができます。詳細は18ページをご覧ください。

4. [PLAY]を押して、再生をストップします。

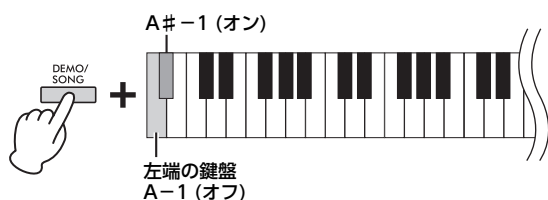
最初の発音からすぐにスタートする(クイックプレイ)

最初の音の前に空白がある曲(弱起の曲など)を再生する場合に、実際に音が鳴るところから再生(オン)するか、休符や空白を含めて曲のデータどおりに再生(オフ)するかを選びます。

初期設定:
オン

クイックプレイのオン/オフを切り替える

[DEMO/SONG]を押したままA#-1(オン)またはA-1(オフ)鍵盤を押してクイックプレイのオン/オフを切り替えます。



演奏を録音する

この楽器では、録音機能を使って自分の演奏を1曲、ユーザーソング(MIDI)として録音できます。演奏は、右手パートと左手パートの2つ(2トラック)を、個別に録音できます。録音したデータはユーザーソングとして楽器に保存されます。

演奏を録音する

1. 音色を選んだり、拍子などを設定します。

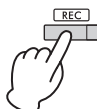
音色の選択方法については、19ページをご覧ください。必要に応じてそのほかの設定(リバーブなど)も選んでください。

2. 録音モードに入ります。

かんたん録音

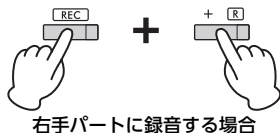
[REC]を押して録音モードに入ります。この場合、両手で演奏しても、自動的に右手パートに録音されます。

かんたん録音の場合、それまでの録音データは、右手パート、左手パートとも消えてしまいますので、ご注意ください。

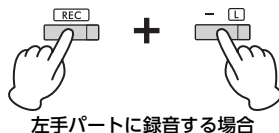


パートを指定して録音する

[REC]を押したまま、録音したいパートのボタン([+R]または[-L])を押して録音モードに入ります。



右手パートに録音する場合



左手パートに録音する場合

もう一方のパートにすでに録音データがある場合、そのパートのランプが点灯します。録音と同時にパートの再生が始まりますので、それに合わせて録音できます。また、[PLAY]を押したまま、パートのボタン([+R]または[-L])を押すことで、パート再生のオン/オフを切り替えられます。

録音を中止する場合

もう一度[REC]を押します。

3. 鍵盤を弾く、または[PLAY]を押して、録音をスタートします。

録音中は、[REC]のランプが点灯し、録音しているパートのランプが現在のテンポに合わせて点滅します。

4. [REC]または[PLAY]を押して、録音をストップします。

[REC]、[PLAY]、[+R]、[-L]のランプが点滅し、保存中であることを示します。保存が終わるとランプが消灯し、録音モードは自動的に解除されます。

5. [PLAY]を押して、録音したソングを聞きます。

もう一度[PLAY]を押すと再生は止まります。

もう一方のパートに録音する場合

上記手順を繰り返します。手順2では、「パートを指定して録音する」の方法で行います。

ご注意

この楽器で録音できる曲は1曲です。すでに録音データがある場合、既存のデータは消えてしまいますのでご注意ください。

NOTE

- スマートデバイスアプリ「スマートピアニスト」(31ページ)を使えば、スマートデバイス上にMIDI録音、またはオーディオ録音でき、録音データも保存できます。
- メトロノームを鳴らしながら録音することもできます。ただしメトロノームの音は、録音されません。
- デュオ(24ページ)を設定している場合、右奏者側は右手パートに、左奏者側は左手パートに録音されます。パートを選んで録音することはできません。
- 本体の容量が少ない場合、録音モードに入るとき[REC]と[PLAY]のランプが3秒間すばやく点滅します。

ご注意

すでに録音データがあるパートに録音すると、既存のデータは消えてしまいますのでご注意ください。

ご注意

データ保存中(すべてのボタンのランプが点滅中)は楽器の電源を切らないでください。録音中のデータだけでなく、すべての記憶内容が失われる原因になります。

演奏記憶容量

この楽器に記憶できる容量は、およそ11,000音符です。

録音済みのユーザーソングの設定を変える

以下の項目については、録音終了後に変更できます。

- パートごとの設定: 音色(19ページ)、デュアル(23ページ)の音量バランス、リバーブ深さ(21ページ)
- ソング全体の設定: テンポ(18ページ)、リバーブタイプ(21ページ)

1. 上記項目につき、必要な設定を行います。

2. [REC]を押したまま、設定を変更したいパートのボタン ([+R]または[-L])を押して、録音モードに入ります。

[REC]、[PLAY]と指定したパートのランプが点滅します。

この状態で[PLAY]または鍵盤を押さないでください。録音済みデータが消去されてしまいます。

3. [REC]を押したまま、[PLAY]を押して、録音モードを抜けます。

[REC]、[PLAY]、[+R]、[-L]のランプが点滅します。

保存が終わると、すべてのボタンのランプが消灯します。

[PLAY]を押して、設定が変更されたか確認してみましょう。

録音した演奏を消去する

ユーザーソング全体の消去

1. [REC]を押したまま[DEMO/SONG]を押します。

[REC]と[PLAY]が交互に点滅します。

消去をキャンセルする場合は、[REC]を押します。

2. [PLAY]を押し、データを消去します。

[REC]、[PLAY]、[+R]、[-L]のランプが点滅します。

データの消去が終わると、すべてのボタンのランプが消灯します。

特定パートの消去

1. [REC]を押したまま、[+R]または[-L](消去したいパート)を押して、録音モードに入ります。

[REC]、[PLAY]と選択されたパート([+R]または[-L])のランプが点滅します。

2. [PLAY]を押して録音を始めます(鍵盤は弾きません)。

選択されたパート([+R]または[-L])のランプが点滅します。

3. [REC]または[PLAY]を押して録音をストップします。

選択されたパートの全データが消去され、ランプが消灯します。

NOTE

ユーザーソングがない場合は、[REC]と[PLAY]が約3秒間、すばやく点滅します。

スマートデバイスやコンピューターと接続して使う

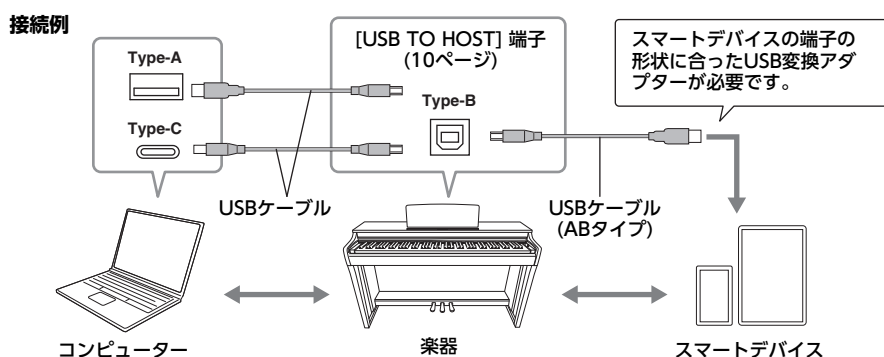
楽器とコンピューター、スマートフォンやタブレット端末などのスマートデバイスと接続することで、演奏情報のやりとりができるようになります。スマートデバイスやコンピューターには、USBケーブルまたはBluetoothで接続できます。

ご注意

スマートデバイスを不安定な場所に置かないでください。スマートデバイスが落下して破損するおそれがあります。

オーディオデータを再生/録音する(USBオーディオインターフェース機能)

USBケーブルを使ってスマートデバイスやコンピューターを [USB TO HOST] 端子に接続すると、オーディオデータをデジタルで送受信できます。スマートデバイスやコンピューターにあるオーディオデータを楽器で再生したり、楽器の演奏をオーディオデータとしてスマートデバイスやコンピューターに録音したりできます。



Windows搭載のコンピューターでオーディオデータを送受信するときに、動作が不安定だったり遅延が生じたりする場合は、「Yamaha Steinberg USB Driver」をご利用ください。下記ウェブページで「Yamaha Steinberg USB Driver」を検索し、ドライバーをコンピューターにインストールしてください。インストール方法は、ダウンロードファイルに付属のインストールガイドでご確認ください。

サポート・お問い合わせ「ソフトウェア」：<https://jp.yamaha.com/support/updates/>

ご注意

DAW (Digital Audio Workstation)などの音楽制作アプリケーションと一緒に使用する場合、設定によっては大きな音が発生することがあるため、オーディオループバックをオフにしてご使用ください(30ページ)。

NOTE

- コンピューターやスマートデバイスの機種またはOSの種類によっては、ノイズが発生したりこの機能を使用できなくなったりする場合があります。
- グランド・エクスプレッション・モデリング(35ページ)に関連するMIDIデータを編集すると予期せぬ音が生じる場合があります。

[USB TO HOST] 端子ご使用時の注意

[USB TO HOST]端子にスマートデバイスやコンピューターを接続するときは、スマートデバイス/コンピューターや楽器の停止(ハングアップ)によるデータの損失を防ぐため、以下のことを行ってください。

ご注意

- USBケーブルは、3メートル未満のケーブルをご使用ください。タイプBのUSB3.0ケーブルは使用できません。
- 楽器の電源オン/オフやUSBケーブルの抜き差しをする前に以下のことを行ってください。
 - すべてのアプリケーションを終了させてください。
 - 楽器からデータが送信されていないか確認してください(鍵盤を演奏したりソングを再生させたりしても、楽器からデータが送信されます)。
- 楽器の電源オン/オフやUSBケーブルの抜き差しは、6秒以上間隔を空けて行ってください。

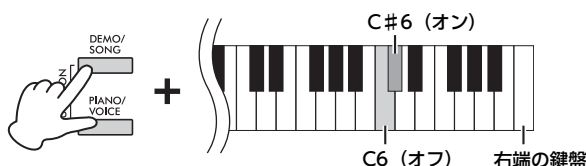
スマートデバイス/コンピューターや楽器が停止したときは、アプリケーションやスマートデバイス/コンピューターを再起動するか、楽器の電源を入れ直してください。

オーディオループバックのオン/オフ

[USB TO HOST]端子からのオーディオ入力音を、楽器の演奏音に重ねて再度コンピューターやスマートデバイスに戻すか(オン)、戻さないか(オフ)を設定できます。

[DEMO/SONG]と[PIANO/VOICE]を同時に押したまま、C6鍵盤を押すとオフ、C#6鍵盤を押すとオンになります。

初期設定: オン



Bluetooth対応機器のオーディオ再生音を楽器のスピーカーで聞く (Bluetoothオーディオ機能)

Bluetoothで接続する前に、必ず9ページの「Bluetoothに関するお知らせ」をお読みください。

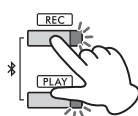
スマートデバイスやコンピューター、Bluetooth対応のオーディオ再生機器(オーディオプレーヤー)を楽器に接続すると、接続した機器での再生音を楽器のスピーカーから鳴らすことができます。

NOTE

- 接続するオーディオプレーヤーは、Bluetoothによりオーディオデータを送信できる機能が必要です。また、A2DP (Advanced Audio Distribution Profile)に対応している必要があります。
- この楽器から外部機器にBluetoothでオーディオデータを送信することはできません。そのため、Bluetoothヘッドホンやスピーカーとは接続できません。

Bluetoothで接続するには、この楽器のBluetooth機能がオンになっている必要があります。初期設定ではBluetooth機能はオンですが、オフにすることもできます(31ページ)。

1. [REC]と[PLAY]を同時に3秒押して、Bluetooth対応機器とのペアリング*を始めます。



ペアリングを中止するには、いずれかのボタンを押します。

* ペアリング:

Bluetooth対応機器をこの楽器に登録し、無線通信できるように設定することをいいます。

2. Bluetooth対応機器のBluetooth機能をオンにし、接続先リストから「CLP-826 AUDIO」を選びます。

この操作は、[REC]と[PLAY]が点滅している間に行ってください。

3. Bluetooth対応機器でオーディオデータを再生し、楽器から音が出ることを確認します。

Bluetooth機能のオン/オフを切り替える

Bluetooth対応機器をBluetoothオーディオまたはBluetooth MIDIでこの楽器に接続する場合、Bluetooth機能をオンにする必要があります。

[DEMO/SONG]と[PIANO/VOICE]を同時に押したまま、F1鍵盤を押すとオフ、F#1鍵盤を押すとオンになります。



初期設定: オン

アプリ「スマートピアニスト」とつないで便利な機能を使う

スマートフォンやタブレット端末などのスマートデバイスと接続してアプリ「スマートピアニスト」を使うと、譜面をスマートデバイス上に表示したり、スマートデバイスに演奏を録音したりできます。また、設定内容をわかりやすい表示で確認できて便利です。



対応のスマートデバイスやアプリについて詳しくは、スマートデバイスで左のコードを読み取ってアプリの紹介ページでご確認ください。読み取れない場合は、下記のウェブサイトへアクセスし、「Smart Pianist」(スマートピアニスト)のページでご確認ください。

<https://jp.yamaha.com/kbdapps/>

アプリをスマートデバイスにインストールしたら、この楽器に接続して使ってみましょう。楽器とスマートデバイスは、BluetoothまたはUSBケーブルで接続します。接続方法やアプリの使い方など詳しくは、「スマートピアニスト ユーザーガイド」(2ページ)をご覧ください。

ご注意

スマートピアニストと接続すると、楽器の設定は、スマートピアニストで設定した内容に変更されます。

NOTE

スマートピアニストとの接続中は、楽器上では操作できません。スマートピアニストを使って楽器を操作してください。スマートピアニストとの接続を解除するには、スマートピアニストを閉じるか、楽器の[DEMO/SONG]と[PIANO/VOICE]を同時に押します。または、[φ](スタンバイ/オン)スイッチで楽器の電源を切るにより、接続を解除することもできます。

Bluetoothで接続する

Bluetoothで接続する前に、必ず9ページの「Bluetoothに関するお知らせ」をお読みください。

楽器とスマートデバイスをBluetoothで接続するには、Bluetooth MIDIとBluetoothオーディオの設定を個別にする必要があります。スマートピアノストを使うには、必ずBluetooth MIDIでの接続が必要です。オーディオデータを楽器で鳴らす場合には、Bluetoothオーディオの設定もしてください。

NOTE

Bluetoothで接続した場合、スマートピアノストでオーディオ録音はできません。オーディオ録音するには、USBケーブルで接続してください(以下参照)。

1. 楽器とスマートデバイスをBluetoothオーディオで接続します(30ページ)。

接続に成功すると、楽器側でオーディオデータを受信できるようになります。

2. スマートピアノストを使って、楽器とスマートデバイスをBluetooth MIDIで接続します。

接続方法は、「スマートピアノスト ユーザーガイド」(2ページ)でご確認ください。接続先として、「CLP-826 MIDI」を選んでください。接続に成功すると、楽器とスマートデバイス間でMIDIデータを送受信できるようになります。

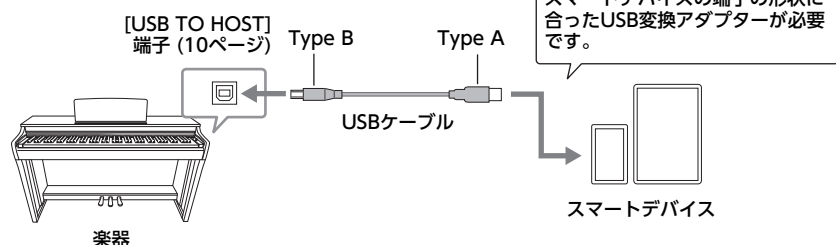
USBケーブルを使って接続する([USB TO HOST]端子)

USBケーブルを使って楽器の[USB TO HOST]端子とスマートデバイスを接続します。接続方法は、「スマートピアノスト ユーザーガイド」(2ページ)でご確認ください。[USB TO HOST]端子を使う前に、「[USB TO HOST]端子使用前のご注意」(29ページ)をお読みください。

ご注意

USBケーブルはABタイプで、3メートル未満のものをご使用ください。また、充電専用ではなく、USB規格に準拠したデータ通信可能なケーブルをご使用ください。

接続例



データのバックアップと初期化

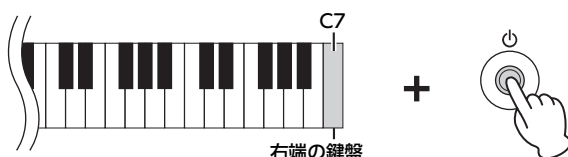
電源を切ったときに記憶されるデータ

下記の設定やデータは電源を切っても記憶(バックアップ)されています。

• メトロノームの音量 • メトロノームの拍子 • タッチ感度 • チューニング • インテリジェント・アコースティック・コントロール (IAC)のかかり具合 • インテリジェント・アコースティック・コントロール (IAC)のオン/オフ • 音量制限	• バイノーラルサンプリングとステレオフォニックオプティマイザーのオン/オフ • 鍵盤操作音のオン/オフ • オートパワーオフ機能の有効/無効 • スピーカーのオン/オフ • 自分で録音したソング(ユーザーソング)データ • デュオタイプ(セパレート・バランス) • Bluetoothのオン/オフ
---	---

初期化する

右端の鍵盤(C7)を押したまま電源を入れることにより、ユーザーソングとBluetoothのペアリング情報以外のデータが初期化され、工場出荷時の状態になります。



ご注意

初期化実行中([REC]、[PLAY]、[+R]、[-L]のランブ点滅中)は、電源を切らないでください。

NOTE

この楽器が何らかの原因で操作不能になったり、誤動作した場合は、いったん電源を切り、初期化を行ってください。

楽器のバージョンを確認する

お使いの楽器のバージョンを確認できます。[DEMO/SONG]と[PIANO/VOICE]を同時に押したままB0の鍵盤を押すと、現在の楽器のバージョンが英語で読み上げられます。



ファームウェアのアップデートについて

ヤマハ製品では、機能や操作性向上のために、不定期に製品本体のファームウェアをアップデートすることがあります。本体ファームウェアのアップデートや最新情報については、製品ウェブサイトをご確認ください。

困ったときは

現象	考えられる原因と解決法
電源が勝手に切れる。	故障ではありません。オートパワーオフ機能(12ページ)が働いたためです。
本体の電源が入らない。	プラグが差し込まれていません。DCプラグを本体のDC IN端子に、電源プラグを家庭用(AC 100V)コンセントに、確実に差し込んでください(12ページ)。
[ゆ](スタンバイ/オン)スイッチを押して電源を入れたとき、または切ったとき、「カチッ」や「ポツッ」と音がする。	電気が流れたためです。故障ではありません。
本体から雑音が出る。	本体の近くで携帯電話を使ったり、呼び出し音が鳴ったりすると、雑音が出る場合があります。本体の近くでは、携帯電話の電源を切ってください。
	スマートデバイスと一緒に使用する場合は、通信によるノイズを避けるため、スマートデバイスの機内モードをオンにしてお使いいただくことをおすすめします。楽器と無線で接続するときは、スマートデバイスのBluetoothの設定がオンになっていることを確認してください。
全体的に音が小さい。 まったく音が出ない。	音量(ボリューム)が下がっています(MIN側になっています)。 [VOLUME]つまみを右に回して、音量を上げてください(10ページ)。
	2つの[PHONES]端子のどちらかに、ヘッドホンまたは変換アダプターなどが接続されています。ヘッドホン(変換アダプター)を抜いてください(13ページ)。
	楽器本体のスピーカーがオフになっています。スピーカーの設定をノーマルまたはオンにしてください(14ページ)。
	音量制限の機能が有効になっています。音量制限をオフにしてください(13ページ)。
	ローカルコントロールがオフになっています。ローカルコントロールをオンにしてください。詳細はウェブサイト上の「MIDIリファレンス」をご覧ください(2ページ)。
ペダルが効かない。	ペダルコードのプラグが[TO PEDAL]端子にしっかりと差し込まれていません。本体の電源を切った状態で、ペダルコードのプラグを[TO PEDAL]端子に確実に差し込んでください。その際、プラグの金属部分が見えなくなるまで、しっかりと差し込んでください(15ページ)。
特定の音域でピアノボイスの音の高さ、音質がおかしい。	ピアノボイスでは、ピアノ本来の音をできる限り忠実に再現しようとしています。その結果、音域により倍音が強調されて聞こえるなど、音の高さや音域が異質に感じる場合があります。異常ではありません。
鍵盤を弾くと、機構音がカタカタ鳴る。	本体の鍵盤機構は、ピアノの鍵盤機構をシミュレートして設計されています。ピアノの場合でも機構音は実際に出ているものです。異常ではありません。
楽器の起動時、ソングの選曲時、録音終了時などに[+R]と[-L]ランプが点滅する。	故障ではありません。楽器の内部処理に時間がかかっている場合に、[+R]と[-L]ランプが点滅することがあります。点滅中、楽器の操作はできないのでご注意ください。

現象	考えられる原因と解決法
Bluetooth対応のオーディオ再生機器とペアリングまたは接続できない。	オーディオ再生機器のBluetooth機能が有効か確認してください。Bluetoothでペアリングまたは接続するには、この楽器と接続する機器の両方のBluetooth機能を有効にする必要があります。
	Bluetoothで接続するには、はじめに機器同士をペアリングする必要があります(30ページ)。
	2.4 GHz帯の電磁波を発するもの(電子レンジ、無線LAN機器など)が近くにある場合は、電磁波を発するものからこの楽器を離してください。

下記ウェブサイト「よくあるお問い合わせ(Q&A)」もご確認ください。それでも解決しない場合は、「電子ピアノ・キーボードご相談窓口」(46ページ)へお問い合わせください。



<https://yamaha.io/faq-jp-piano>

用語解説

VRM (Virtual Resonance Modeling/バーチャル・レゾナンス・モデリング)

グランドピアノの共鳴音は、ダンパーペダルを踏んだときに、弾いた鍵盤の弦の振動がほかの弦や響板へ伝わることで生まれます。この複雑に影響し合う弦や響板などの状態をシミュレートし、それをリアルに再現することで、グランドピアノならではの響きを作り出す技術がVRM (バーチャル・レゾナンス・モデリング)です。鍵盤を押さえるタイミングやペダルを踏むタイミングと深さに応じて、より多彩な演奏表現が可能になります。

グランド・エクスプレッション・モデリング

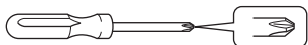
アコースティックピアノでは、鍵盤を押してから離すまでのタッチを変えることにより、音を微妙に変化させることができます。たとえば、鍵盤を底までしっかり押せば、鍵盤が棚板(鍵盤下の板)に当たってコツンと鳴り、その衝撃が弦に伝わって音がわずかに変化します。また、音が消える寸前(ダンパーが弦に触れる瞬間)の音も、鍵盤から指を離す速さにより微妙に変化します。このようなタッチによる音の微妙な違いを再現する技術がグランド・エクスプレッション・モデリングです。強めのタッチでアクセントを付けたり、やわらかなタッチで輝かしい響きを付けたり、と多彩な音色を奏でることができます。また、スタッカートで弾いたときには歯切れのいい音を、ゆっくり指を離したときには長く余韻を残す音を表現できます。

組み立て方

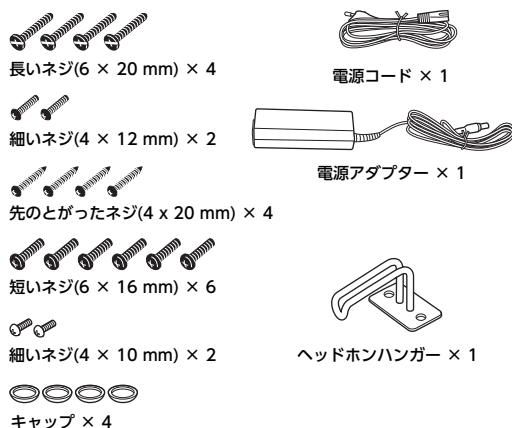
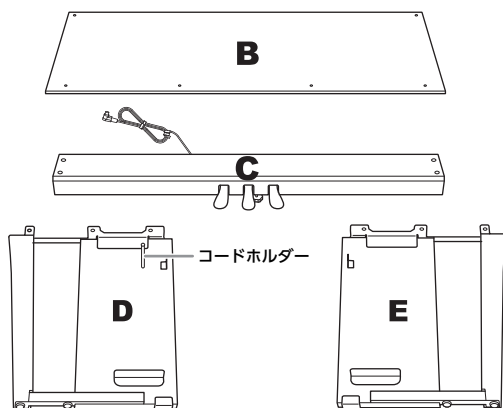
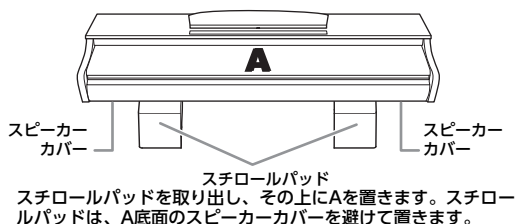
⚠ 注意

- 硬くて平らな場所で組み立ててください。
- 使う部品や向きに注意して、手順どおりに組み立ててください。
- 必ず2人以上で組み立ててください。
- ネジは付属の指定サイズ以外のは使用しないでください。異なるネジを使用すると、製品の破損や故障の原因になります。
- ネジなどの小さな部品は、乳幼児の手の届くところに置かないでください。お子様が誤って飲み込むおそれがあります。
- ネジは各ユニット固定後、ゆるみがないようきつく締め直してください。
- 組み立て後は、7ページ「楽器の移動と設置」を確認のうえ、楽器を設置してください。
- 解体は、組み立てと逆の手順で行ってください。

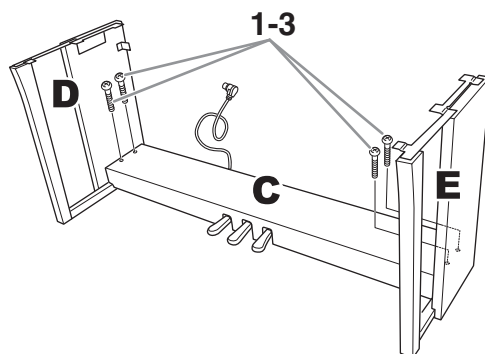
ネジのサイズに合ったプラス(+)のドライバーを用意してください。



すべての部品を取り出し、部品がそろっていることを確かめてください。



1. DとEにCを仮留めします。



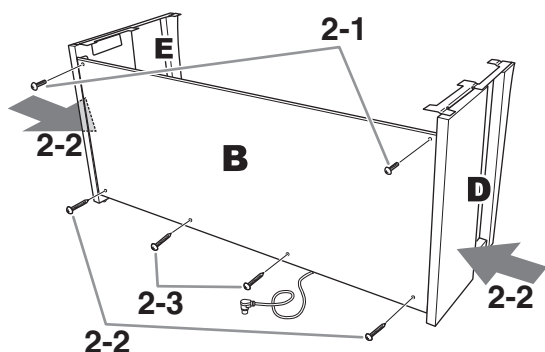
1-1 ペダルコードをほどこきます。

1-2 Cの両端にDとEを合わせて置きます。

1-3 DとEにCを長いネジ(6×20mm) 4本で仮留めします。

2. Bを固定します。

モデルによっては、Bの裏表で色が違う場合があります。この場合は、演奏者側から見たときにBの色とD、Eの色が同じになる向きで、Bを取り付けます。



2-1 Bのネジ穴とD、Eのネジ穴の位置を合わせ、上側を細いネジ(4×12 mm) 2本で仮留めします。

2-2 DとEの下部を左右から押しながら、Bの下側の左右を、先のとがったネジ(4×20mm) 2本で固定します。

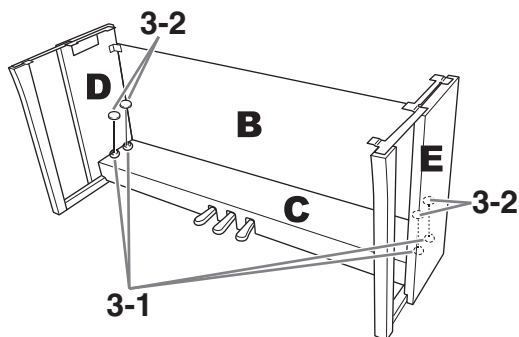
2-3 下側の残り2箇所を先のとがったネジ(4×20mm) 2本で固定します。

2-4 Bを仮留めした上側のネジ(手順2-1)をきつく締め直します。

3. Cを固定します。

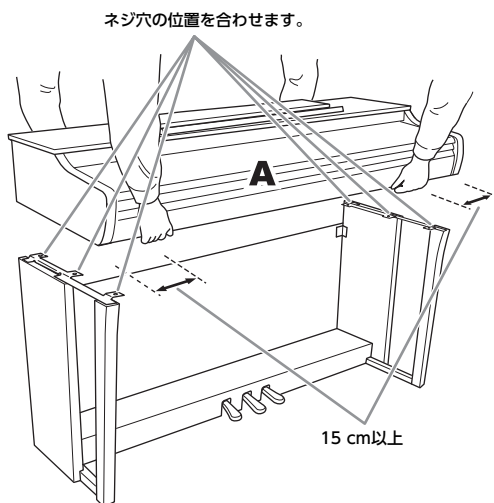
3-1 Cを仮留めしたネジ(手順1-3)をきつく締め直します。

3-2 ネジの頭にキャップを付けます。



4. Aをのせます。

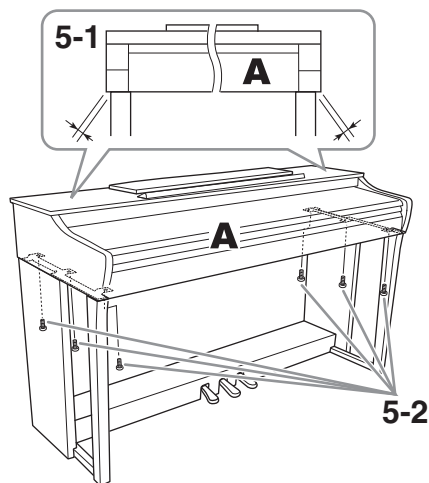
必ず本体の端から15 cm以上内側の底面を持ちます。



⚠ 注意

- 指をはさんだり、本体を落としたりしないよう十分ご注意ください。
- 指定した位置以外を持たないでください。

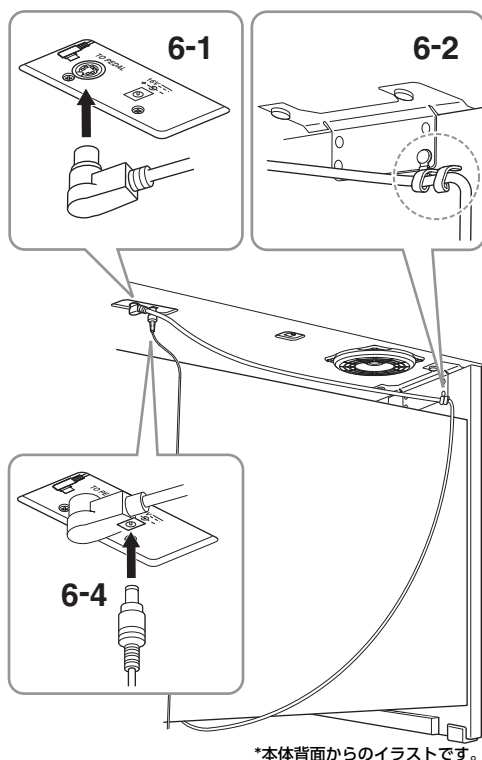
5. Aを固定します。



5-1 前面から見て、Aの張り出し部分が左右均等になるように調整します。

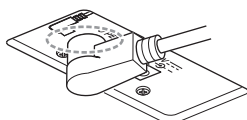
5-2 前面から短いネジ(6×16mm) 6本で固定します。

6. ペダルコードのプラグと電源プラグを接続します。



6-1 ペダルコードのプラグを背面から [TO PEDAL]端子に差し込みます。

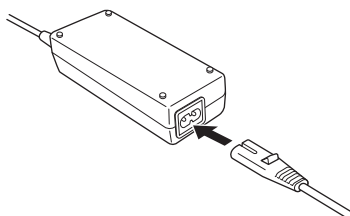
プラグの金具部分が
見えなくなるまで
しっかり差し込んで
ください。



6-2 ペダルコードを、コードホルダーで巻き付け て固定します。

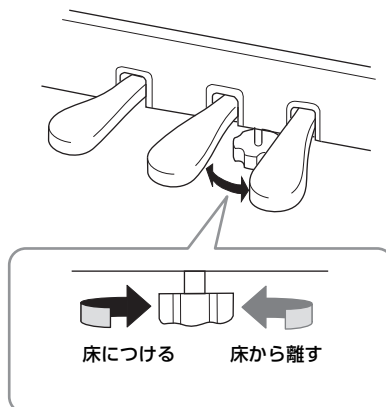
コードホルダーはDに付いています。

6-3 図のように電源コードを電源アダプターに差 し込みます。



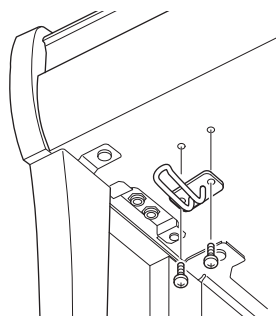
6-4 電源プラグをDC IN端子に差し込みます。

7. アジャスターを回して床にぴったり付け ます。



8. ヘッドホンハンガーを取り付けます。

図のように、付属の細いネジ(4×10 mm)2本で
取り付けます。



組み立て後チェックリスト

- ☐ 組み立て部品の余りはない。
- ☐ 楽器がぐらぐらしない。
- ☐ ペダルのアジャスターが床にぴったり付いている。
- ☐ ペダルコード、電源コードのプラグが、確実に本体に差し込まれている。

→ 上記いずれかにチェックがない場合には、組み立て手順を再度確認してください。

⚠ 注意

使用中に本体がきしむ、横ゆれる、ぐらぐらするなどの症状が出たら、組み立て説明に従って各部のネジを締め直してください。

仕様

品名			電子ピアノ
サイズ/質量	幅		1,350 mm
	高さ	譜面立てを倒した場合	849 mm
		譜面立てを立てた場合	1,003 mm
	奥行き		411 mm
	質量		45 kg
操作子	鍵盤	鍵盤数	88
		鍵盤種	グランドタッチ-エス™鍵盤、木材使用(白鍵)、象牙調・黒檀調仕上げ、エスケープメント付き
		タッチ	ハード、ミディアム、ソフト、固定
	ペダル	ペダル数	3: ダンパー (ハーフペダル対応)、ソステヌート、ソフト
		グランドタッチペダル	○
	パネル	言語	英語
本体	鍵盤蓋		スライド式
	譜面立て		○ (譜面止め付き)
音源/音色	音源	ピアノ音	ヤマハ CFXサンプリング、 ベーゼンドルファー インペリアルサンプリング
		バイノーラルサンプリング	○ (「CFX グランド」のみ)
		バーチャル・レゾナンス・モデリング (VRM)	○
		グランド・エクスプレッション・モデリング	○
	最大同時発音数		256
	プリセット	音色数	10
効果	タイプ	リバーブ	4種類
		インテリジェント・アコースティック・コントロール(IAC)	○
		ステレオフォニックオブティマイザー	○
	ファンクション	デュアル	○
		デュオ	○
録音/再生	プリセット	内蔵曲数	音色デモ 10 + クラシック曲 50 + レッスン曲 303
	MIDI録音	曲数	1
		トラック数	2
		データ容量	1曲 約250 KB (約11,000音符)
ファンクション	全体設定	メトロノーム	○
		テンポ	5~280
		トランスポーズ	-6~0~+6
		チューニング	414.8~440.0~466.8 Hz (約0.2 Hz単位)
		USBオーディオインターフェース機能	44.1 kHz、24ビット、ステレオ

ファンクション	Bluetooth接続	オーディオ	対応プロファイル: A2DP、対応コーデック: SBC
		MIDI	Bluetooth Low Energy MIDI Specificationに準拠
		Bluetoothバージョン	5.0
		無線出力	Bluetooth Class 2
		最大通信距離	約10 m
		無線周波数	2,401～2,481 MHz
		最大出力電力	4 dBm
		変調方式	GFSK
接続端子	ヘッドホン		ステレオ標準フォーン端子 (× 2)
	USB TO HOST		Type B端子
	DC IN		16 V
音響	アンプ出力		20 W × 2
	スピーカー		12 cm ディフューザー付 × 2
電源部	電源アダプター		PA-300C
	消費電力		12 W
	待機電力		0.3 W
	オートパワーオフ		○
付属品		- 取扱説明書(兼保証書) - クラシック名曲50選(楽譜集) - 製品登録のご案内 - ヘッドホン - 椅子 - 電源コード、電源アダプター: PA-300C	
別売品		- ヘッドホン: HPH-150、HPH-100、HPH-50 - ペダルユニット: FC35 - 電源アダプター: PA-300C	

本書は、発行時点での最新仕様で説明しています。最新版は、ヤマハウェブサイトからダウンロードできます。

索引

B

Bluetooth 9, 30, 32

H

Hz (ヘルツ) 22

I

IAC 16

M

MIDIリファレンス 2

U

[USB TO HOST]端子 10, 29, 32

USBオーディオインターフェース機能 29

V

VRM 16

い

インテリジェント・アコースティック・コントロール
(IAC) 16

お

オーディオループバック 30

オートパワーオフ 12

オクターブ 23

音色 19

音色リスト 19

音量(メトロノーム) 18

音量制限 13

音量バランス 23

か

各部の名称と機能 10

片手練習 26

き

キー(調) 22

キーカバー → 鍵盤蓋 11

く

クイックオペレーションガイド 47, 48

クイックプレイ 26

組み立て方 36

クラシック名曲50選 25, 43

ブランド・エクスプレッション・モデリング 17, 35

け

鍵盤操作音 17

鍵盤蓋 11

こ

困ったときは 34

コンピューター 29

さ

再生 25

し

仕様 39

消去 28

初期化 33

す

ステレオフォニックオプティマイザー 14

スピーカーのオン/オフ 14

スマートデバイス 29

スマートピアニスト 31

スマートピアニスト ユーザーガイド 2

せ

説明書 2

そ

ソステヌートペダル 15

ソフトペダル 15

ソング 25

ソング一覧 43

た

タッチ感度 17

ダンパーペダル 15

ち

チューニング 22

て

デモ曲 20

デモ曲リスト 20

デュアル 23

デュオ 24

電源 12

電源アダプター 12

テンポの調節 18

テンポの読み上げ 18

と

トランスポーズ 22

は	
バージョン	33
バーチャル・レゾナンス・モデリング(VRM)	16, 35
バイノーラルサンプリング	14
バックアップ	33
ひ	
左手の練習	26
拍子	18
ふ	
付属品	2
譜面立て	11
へ	
ペアリング	30
ペダル	15
ヘッドホン	13
み	
右手の練習	26
め	
メトロノーム	18
ゆ	
ユーザーソング	27
り	
リバーブ	21
リバーブタイプリスト	21
リバーブの深さ(かかり具合)	21
れ	
レッスン曲	25, 43
ろ	
録音	27

ソング一覧

クラシック名曲50選

No.	曲名	作曲者
アレンジ曲		
1	カノン	J. バッヘルベル
2	G線上のアリア	J. S. バッハ
3	主よ、人の望みの喜びよ	J. S. バッハ
4	きらきら星	トラディショナル
5	ピアノソナタ 第17番「テンペスト」第3楽章	L. v. ベートーヴェン
6	歓喜の歌	L. v. ベートーヴェン
7	子守唄	F. P. シューベルト
8	華麗なる大円舞曲	F. F. ショパン
9	英雄ポロネーズ	F. F. ショパン
10	ラ・カンパネラ	F. リスト
11	愛のあいさつ	E. エルガー
12	家路	A. ドヴォルザーク
13	シシリエンヌ	G. U. フォーレ
14	月の光	C. A. ドビュッシー
15	木星(組曲「惑星」)	G. ホルスト
連弾曲		
16	メヌエット (アイネ・クライネ・ナハトムジーク)	W. A. モーツァルト
17	メヌエット ト長調	L. v. ベートーヴェン
18	トルコ行進曲	L. v. ベートーヴェン
19	ピアノ協奏曲 第1番 第2楽章	F. F. ショパン
20	くるみ割り人形メドレー	P. I. チャイコフスキー
原曲		
21	前奏曲(平均律第1巻第1番)	J. S. バッハ
22	メヌエット ト長調	J. S. バッハ
23	ピアノソナタ 第15番 第1楽章	W. A. モーツァルト
24	トルコ行進曲	W. A. モーツァルト
25	ピアノソナタ 第8番「悲愴」第2楽章	L. v. ベートーヴェン
26	エリーゼのために	L. v. ベートーヴェン
27	ピアノソナタ 第14番「月光」第1楽章	L. v. ベートーヴェン
28	即興曲 作品90 第2番	F. P. シューベルト
29	春の歌	J. L. F. メンデルスゾーン
30	幻想即興曲	F. F. ショパン
31	別れの曲	F. F. ショパン
32	革命のエチュード	F. F. ショパン
33	小犬のワルツ	F. F. ショパン
34	ノクターン 第2番 変木長調	F. F. ショパン
35	ノクターン 第20番 嬰ハ短調 [遺作]	F. F. ショパン
36	トロイメライ	R. シューマン
37	舟歌	P. I. チャイコフスキー
38	乙女の祈り	T. バダジェフスカ
39	愛の夢 第3番	F. リスト
40	花の歌	G. ランゲ
41	ユーモレスク	A. ドヴォルザーク
42	アリエッタ	E. H. グリーグ
43	タンゴ(スペインより)	I. アルベニス
44	エンターティナー	S. ジョプリン
45	メイブル・リーフ・ラグ	S. ジョプリン

No.	曲名	作曲者
46	亜麻色の髪の乙女	C. A. ドビュッシー
47	アラベスク 第1番	C. A. ドビュッシー
48	ケークウォーク	C. A. ドビュッシー
49	ジュ・トゥ・ヴ	E. サティ
50	ジムノペディ 第1番	E. サティ

レッスン曲

No.	曲集名	No./作品名	作曲者
1~50	バイエルピアノ 教則本	第1~50番	F. バイエル
1~50		第51~100番	
1~6		第101~106番	
1~25	ブルグミュラー 25の練習曲	1 素直な心	J. F. ブルグ ミュラー
		2 アラベスク	
		3 牧歌	
		4 子供の集会	
		5 無邪気	
		6 進歩	
		7 清い流れ	
		8 優美	
		9 狩猟	
		10 やさしい花	
		11 せきれい	
		12 さようなら	
		13 なぐさめ	
		14 スティリアの女	
		15 バラード	
		16 小さな嘆き	
		17 おしゃべり	
		18 心配	
		19 アベ・マリア	
		20 タランテラ	
		21 天使の声	
		22 舟歌	
		23 帰途(かえりみち)	
		24 つばめ	
		25 貴婦人の乗馬	
1~50	チェルニー 100番練習曲	第1~50番	C. チェルニー
1~50		第51~100番	
1~30	チェルニー 30番練習曲	第1~30番	C. チェルニー
1~20 21~42	ハノンピアノ 教本	第1部 第1~20番、 第1番の変奏 第1~22番	C-L. ハノン

連弾曲について

以下のソングは連弾曲です。

- ・クラシック名曲50選 No.16~20
- ・バイエルピアノ教則本 第1~11、32~34、41~44、63~64、86~87

連弾曲では、右手パート([+R])が第一奏者の右手、左手パート([−L])が第一奏者の左手になります。第二奏者パートは(両手とも常時再生され、)オフにはできません。(クラシック名曲50選/レッスン曲に適用)

MEMO

保証とアフターサービス

サービスののご依頼やお問い合わせは、お買い上げの販売店、またはこの取扱説明書(以下本書)に記載の修理ご相談センターにご連絡ください。

本書は、保証書の役割を兼ねています。購入を証明する書類(領収書や納品書など、製品名、品番、お買い上げ日、販売店名が記載されたもの)とあわせて、大切に保管してください。保証期間内に万一本製品が故障した場合には、購入を証明する書類をご提示のうえ、お買い上げの販売店にご依頼ください。下記の保証規定に基づいて無料修理を行うことをお約束します。

[出張修理]

製品名	電子ピアノ	品番	CLP-826	製造番号	
お買い上げ日	年 月 日				
保証期間	(お買い上げ日から) 本体/電源アダプター: 1年間、ヘッドホン: 6ヶ月間				
販売店名					

保証規定

保証期間中、正常なご使用状態のもとで万一発生した故障につきましては、本保証規定に基づき無料修理いたします。

■ 保証期間中でも以下の場合は有料となります。

- 購入を証明する書類(領収書や納品書など、製品名、品番、お買い上げ日、販売店名が記載されたもの)のご提示がない場合
- 納品後、輸送や修理時の取り扱いが適当でないために生じた故障の場合
- 提供されている各説明書や本規定に記載の注意事項に反する取り扱いによって発生した故障の場合
- 故障の原因が本製品以外の機器にある場合
- 塗装面および金属面が経年変化により退色、変色した場合
- 弊社認定の修理サービス技術者以外の者が修理/改造した部分で、その修理/改造が不適当であった場合
- 火災、地震、水害、落雷、その他の天災および公害や電圧異常による故障の場合
- 鼠害、塩害などによる故障、損傷の場合

■ 転居・譲渡などを伴う場合、その他注意事項

- 転居、ご贈答品などで、お買い上げの販売店に修理をご依頼できない場合には、修理ご相談センターにご相談ください。
- 離島および離島に準ずる遠隔地への出張修理を行う場合の交通費は実費を申し受けます。
- 保証期間内に、本製品を他人に譲渡あるいは転売された場合でも、残存期間は保証いたします。
- 本保証内容は、日本国内においてのみ有効です。(This warranty is valid only within Japan.)

この保証内容は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。本規定によってお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理などについてご不明の場合は、お買い上げの販売店、または修理ご相談センターにお問い合わせください。

● 保証期間経過後の修理

修理が可能な場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

有寿命部品については、使用時間や使用環境などにより劣化しやすいため、消耗劣化に応じて部品の交換が必要となります。有寿命部品の交換は、お買い上げの販売店、または修理ご相談センターにご相談ください。

有寿命部品の例: ポリウムコントロール、スイッチ、ランプ、リレー類、接続端子、鍵盤機構部品、鍵盤接点、ドラムパッドなど

● 補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造終了後8年です。

● 修理のご依頼

本製品に異常が見られた場合は、まず本書の「困ったときは」をよくお読みのうえ、本製品の状態をお調べください。それでも改善しないときは、お買い上げの販売店、または修理ご相談センターにご連絡ください。

● 製品の状態は詳しく

修理をご依頼いただくときは、製品名、品番などとあわせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

販売元: 株式会社ヤマハミュージックジャパン
〒220-0012

神奈川県横浜市西区みなとみらい5丁目1番2号
横浜シンフォステージ ウェストタワー

* 名称、住所は変更になる場合があります。

修理に関するお問い合わせ

お買い上げの販売店、または下記の修理ご相談センターにご連絡ください。

※修理をご依頼いただくときは、製品名、品番などとあわせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

◆ 修理ご相談センター



0120-149-808

携帯電話、
IP電話からは

050-3852-4106

受付 月曜日～金曜日 10:00 ～ 12:00、13:00 ～ 17:00
(祝日、センター指定休日を除く)

FAX

- 東日本(北海道/東北/関東/甲信越/東海): 03-5762-2125
- 西日本(北陸/近畿/中国/四国/九州/沖縄): 06-6649-9340

◆ 修理品お持込み窓口

受付 月曜日～金曜日 10:00 ～ 12:00、13:00 ～ 17:00

(祝日、センター指定休日を除く)

※お電話は、修理ご相談センターでお受けします。

● 東日本サービスセンター

〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1 JMT京浜E棟A-5F
FAX 03-5762-2125

● 西日本サービスセンター

〒556-0011 大阪市浪速区難波中1丁目13-17 ナンバ辻本ビル7F
FAX 06-6649-9340

製品の仕様や取り扱いに関するお問い合わせ

お買い上げの販売店、または下記のお客様コミュニケーションセンターにご連絡ください。

◆ お客様コミュニケーションセンター 電子ピアノ・キーボードご相談窓口

一般電話、携帯電話、IP電話から

050-3852-4079

受付 月曜日～金曜日 10:00 ～ 12:00、13:00 ～ 17:00
(祝日、センター指定休日を除く)

ヤマハ サポート・お問い合わせ

<https://jp.yamaha.com/support/>



ヤマハ 楽器音響製品お客様サポート
LINE 公式アカウント



ヤマハ ピアノ・電子ピアノサイト
<https://jp.yamaha.com/piano/>

ヤマハ株式会社

〒430-8650 静岡県浜松市中央区中沢町 10-1

* 名称、住所、電話番号、営業時間などは変更になる場合があります。

3 メトロノームの設定

The diagram illustrates the various settings of a metronome, organized into five main sections from left to right:

- メトロノームのテンポ読み上げ (Metronome Tempo Reading):** Shows a scale from A#1 to C#0. A hand icon points to the 'METRONOME' button.
- メトロノーム/プリセットソングのテンポ (Metronome/Pre-set Song Tempo):** A table showing tempo values for various keys.

Key	Tempo
A#1	1
C#1	2
D#1	3
E#1	4
F#1	5
G#1	6
A#1	7
B#1	8
C#1	9
D#1	10
E#1	11
F#1	12
G#1	13
A#1	14
B#1	15
C#1	16
D#1	17
E#1	18
F#1	19
G#1	20
A#1	21
B#1	22
C#1	23
D#1	24
E#1	25
F#1	26
G#1	27
A#1	28
B#1	29
C#1	30
D#1	31
E#1	32
F#1	33
G#1	34
A#1	35
B#1	36
C#1	37
D#1	38
E#1	39
F#1	40
G#1	41
A#1	42
B#1	43
C#1	44
D#1	45
E#1	46
F#1	47
G#1	48
A#1	49
B#1	50
C#1	51
D#1	52
E#1	53
F#1	54
G#1	55
A#1	56
B#1	57
C#1	58
D#1	59
E#1	60
F#1	61
G#1	62
A#1	63
B#1	64
C#1	65
D#1	66
E#1	67
F#1	68
G#1	69
A#1	70
B#1	71
C#1	72
D#1	73
E#1	74
F#1	75
G#1	76
A#1	77
B#1	78
C#1	79
D#1	80
E#1	81
F#1	82
G#1	83
A#1	84
B#1	85
C#1	86
D#1	87
E#1	88
F#1	89
G#1	90
A#1	91
B#1	92
C#1	93
D#1	94
E#1	95
F#1	96
G#1	97
A#1	98
B#1	99
C#1	100
- メトロノームの拍子 (Metronome Beat):** A table showing beat values for various keys.

Key	Beat
A#1	1/4
C#1	2/4
D#1	3/4
E#1	4/4
F#1	5/4
G#1	6/4
A#1	7/4
B#1	8/4
C#1	9/4
D#1	10/4
E#1	11/4
F#1	12/4
G#1	13/4
A#1	14/4
B#1	15/4
C#1	16/4
D#1	17/4
E#1	18/4
F#1	19/4
G#1	20/4
A#1	21/4
B#1	22/4
C#1	23/4
D#1	24/4
E#1	25/4
F#1	26/4
G#1	27/4
A#1	28/4
B#1	29/4
C#1	30/4
D#1	31/4
E#1	32/4
F#1	33/4
G#1	34/4
A#1	35/4
B#1	36/4
C#1	37/4
D#1	38/4
E#1	39/4
F#1	40/4
G#1	41/4
A#1	42/4
B#1	43/4
C#1	44/4
D#1	45/4
E#1	46/4
F#1	47/4
G#1	48/4
A#1	49/4
B#1	50/4
C#1	51/4
D#1	52/4
E#1	53/4
F#1	54/4
G#1	55/4
A#1	56/4
B#1	57/4
C#1	58/4
D#1	59/4
E#1	60/4
F#1	61/4
G#1	62/4
A#1	63/4
B#1	64/4
C#1	65/4
D#1	66/4
E#1	67/4
F#1	68/4
G#1	69/4
A#1	70/4
B#1	71/4
C#1	72/4
D#1	73/4
E#1	74/4
F#1	75/4
G#1	76/4
A#1	77/4
B#1	78/4
C#1	79/4
D#1	80/4
E#1	81/4
F#1	82/4
G#1	83/4
A#1	84/4
B#1	85/4
C#1	86/4
D#1	87/4
E#1	88/4
F#1	89/4
G#1	90/4
A#1	91/4
B#1	92/4</

4 その他の設定

[illegible]

5 チューニング

音の高さを上げる(0.2 Hz単位)

音の高さを下げる (0.2 Hz単位)

初期値に戻す (440.0 Hz)

6 デュオの設定

デュオのオン/オフを切り替える

7 Bluetooth (オーディオペアリング)

ベアリングを開始する(長押し)



該当のボタンを押したまま、グリーの鍵盤のどれかまたはボタンを押して、ソングを選んだりさまざまな設定をします。

© 2026 Yamaha Corporation
2026年7月 発行
MWMA-B0



VJN5360

1 ソング再生

はじめに①の鍵盤で曲集を選び、次に②の鍵盤でソング番号を選べば再生がスタートします。

① 由集選択

カイトプレイ

五五五

② ソング番号選択

[illegible]

2 音色の設定

糖

リバーズの種類

この深さ

VRM

モテインダ

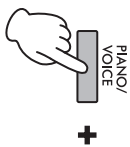
デュオタイプ

（デュアル/デュオ

(デュアル/デュオ)

タッチ感度

①曲集	②ソング番号
クラシック名曲50選	1～50
バエエル 1～50	1～50
バエエル 51～100	1～50
バエエル 101～166	1～6
ワルタミューー 1～25	1～25
チャルニー 100、1～50	1～50
チャルニー 100、51～100	1～50
チャルニー 30、1～30	1～30
ハショ 1～20	1～20
ハショ 1、1～20	21～42
クラシック名曲50選(曲番号/曲名)	
1 カノン	11 憂のあいだつ
2 G線上のアリア	12 露路
3 主よ、人の望みの喜びよ	13 シシ・エンツ
4 せらぎら星	14 月の光
5 ビアノリタ 第17番(ソナタ)第3楽章	15 木星(組曲「惑星」)
6 牧笛の歌	16 ヌエエツ(ソナタ)第3楽章(ホルン)
7 子守唄	17 メヌエツト(ソナタ)第1楽章(ホルン)
8 華麗なる大円舞曲	18 トリ行進曲(ホルン、第1楽章)
9 英雄ポロネーズ	19 ビアノリタ 第1番 第2楽章
10 ラ・カバネラ	20 くるみ割り人形(メロディー)
	21 前奏曲(平均律第1巻第1番)
	22 ヌエエツト(ソナタ)第1楽章
	23 ビアノリタ 第15番(第1楽章)
	24 トリ行進曲(W.A.モーツァルト)
	25 ビアノリタ 第8番(変奏曲)第2楽章
	26 エリアーゼのための
	27 ビアノリタ 第14番(月光)第1楽章
	28 即興曲 作品90 第2番
	29 春の歌
	30 幻想即興曲
	31 別れの曲
	32 革命のエチュード
	33 小水のワルツ
	34 リターズ 第2番 変奏(長調)
	35 フラメンコ 第20番 変奏(短調)「魂」
	36 トロイメライ
	37 舟歌
	38 愛の祈り
	39 夢の歌 第3番
	40 花の歌
	41 ヌーモリス
	42 フリッツ
	43 タンゴ(ベレンよ)
	44 エンター・テナー
	45 メス・リタ 第1番
	46 母娘の髪(メロ)
	47 フラメンコ 第1番
	48 ケー・ケ・ケ
	49 ジュ・ベ・ベ
	50 シム・ベ・ベ 第1番

[illegible]